

| | |
|------|---|
| 経営理念 | <p>子どもたちが、自分を大切にし、友だち一人一人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、学習に生き生きと取り組む教育活動を推進し、『生きる力』を育む教育を創造する。</p> <p>① 基礎学力の定着・学力の向上とその基盤となる基本的生活習慣の確立、体力の増進をめざす。</p> <p>② 自分や他の人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。</p> <p>③ 安全・安心な学校づくりに努める</p> <p>④ 学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、地域協働の教育活動を推進する。</p> <p>⑤ チーム学校として、教育力の向上に組織的に取り組む。</p> |
|------|---|

| | 中期経営目標 | 短期経営目標（評価項目） | 自己評価 | | 評価委員評価 | | 改善策 |
|---------|--|---|------|--|--------|---|--|
| | | | 評価 | 達成状況 | 評価 | 考察 | |
| 豊かな心の育成 | I 自分や他の人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。 | ○自分や他の人を大切に思う言動がとれるようにする。 | B | ○学校行事や学級活動等を通じ、自尊感情が向上し、多くの児童が自分や友だちを大切にできる姿を見られるようになった。軽はずみな言動も昨年度に比べ少なくなった。 | B | ○保護者アンケート No.6（言葉づかいやあいさつ）、児童アンケート（No.15,16（友だちに言われたりされたり）のマイナス評価がやや多い。 人間関係作りの基礎を培う段階で言葉づかいの大切さについて、保護者を含めて学校全体で取り組んで欲しい。 ○児童アンケートで問15,16の結果が良くない。 | ○言葉づかいや相手に配慮した言動については継続して支援・指導していく。No.15,16を0にできるよう、日常的に指導を続ける。 ○児童が主体的に考え行動できる行事や場を仕掛け、自信や自尊感情向上に繋げる。 |
| | | ○日常的に児童の観察を絶やさず、教職員同士の情報交換・共有などによって問題行動の早期発見に努め、組織で迅速に対応する。 | B | ○日常的に児童の生活状況や行動等を観察・把握し学年間やブロック間での情報交換・共有を行い、ブレのないように組織的な対応に努めている。児童への対応時には、学級担任を中心に迅速な対応、保護者への連絡、家庭訪問等ができた。 | B | ○生徒は先生に相談できているようだが、先生から保護者へのつながりが見えてこないのもう少し家庭との連携があればと思う。 ○教職員相互情報共有されているようですが、校外での子どもの様子、児童館での子どもの姿をどう共有しているか疑問。 ○家庭訪問が大切ですね。 | ○初期対応を確実にし、教職員間での報告・連絡・相談を徹底し、ブレのないよう迅速に組織的に取り組む。 ○全教職員が常に未然防止の意識を持ち、日常的に児童の様子を観察し、変容を見逃さないようにする。児童や保護者が相談しやすい環境・関係づくりに努める。 |
| | | ○学校や社会のきまりを守れるようにし、規範意識を身につける。 | B | ○教職員間でも意識を持ち、継続指導を行っており、日常の生活等でも多くの児童に規範意識が身についている。繰り返し個別指導が必要な児童には、丁寧かつ根気強く支援や指導を続けている。 | B | ○学校から一歩出た子どもの解放感をどうとらえているのか。 ○児童アンケートの問4,8,9の結果がますます良い。 | ○学校全体で組織的に継続して指導を行う。外部機関との情報共有を密にし、連携・協働して取り組んでいく。 ○児童が自分たちで「きまり」について考えたり、改善策を立てたりする機会を仕掛けていく。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---------------------------------------|---|---|--|---|---|--|
| | | ○さまざまな人との出会いを通じた学習や地域についての学習などをすすめることにより自己有用感を高め、学習したことが生活の中で行動化できるようにする。 | A | ○各学年ともに、内容や方法を工夫して地域の方々との交流学习を実施することができ、視野を広げることができた。 | B | ○地域についての学習はどのようにされているのか。 ○地域のつながりを大切に学習活動を今後も継続していく中で、まちづくりプロジェクト等、新しい動きに参画する子どもが育つことを期待する。 ○児童アンケート問11～14の結果が良い。 | ○児童が日常的に地域や地域の方と関われる機会や主体的に活動できる機会を設定し、仕掛けていく。 ○市民館や地域の施設と情報を共有し、人権学習（同和問題、高齢者学習）等、活動できる内容を検討しさらに深めていく。 |
| 学 力 の 向 上 | 2 基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的生活習慣の確立をめざす。 | ○主体的に学習できる、「分かる楽しい授業」にするため、授業研究や授業評価を進め、授業の改善に努め共有していく。 | B | ○計画的に職員研修を実施し、課題の洗い出しや改善の方向性を共有し、日常的に授業改善を行っているが、基礎学力の定着や学力向上に十分につなげられていない。 | B | ○「基礎学力の定着」を、「問題をくり返し、くり返し何度もすること」とするならば、時間が足りていないのでは？ ○参観を通して感じた事は、授業の中で子ども達の活発な意見、声あまり聞こえなと感じた。「楽しく分かる授業」は教える立場でなく教わる子どもが主人公と思うのです。 ○先生方は努力されているようですが、皆が参加できる授業をめざしていただきたい。 ○主体的な学習への研究、実践をすすめる中で、学習集団づくりの視点から、小グループで学び合う場を取り入れてはどうか。 ○児童アンケートでは、子どもたちが実に授業を分かっており、保護者アンケートでもそれが確認される。 | ○教員が向上心を持ち、ICT活用と授業改善に努めるとともに、お互いの授業を見合い、研究・共有する機会を増やす。 ○校内研修の更なる充実を図り、教員自身が研鑽を重ねていく。 ○日々の学習支援や指導、データ分析等を行い、児童の実態に応じた指導方法を検証し授業改善に生かす。 |
| | | ○保護者や地域ボランティアの方々とともに、のびのび教室等を実施して基礎学力の定着・学力の向上を図る。 | B | ○地域ボランティアの方々との連携・協働し、実施することができた。 ○個に応じた支援や指導を継続しているが、児童の基礎学力の定着、学力向上には十分につなげられていない。 | B | ○昼の学習タイム、のびのび教室の成果と課題は。 ○昼学がなくなり、のびのび教室も縮小され、多様な人間関係の中での学びが（赤小の特徴）が失われつつあるかな。 | ○更にタブレット等のICT機器を効果的に活用し、基礎学力の定着、学力向上を進めていく。 ○保護者や地域の方々との連携・協働し、基礎学力向上・定着に向けての取り組みを検討していく。 |
| | | ○「読む力」「書く力」「表現する力」を育成する。 | B | ○図書の活用や意識して、日常的に読むこと、書くこと、表現することの育成に努めているが成果は不十分である。 | B | ○さらなる「読む力」の育成を。 | ○日常的に「読む」「書く」「表現する」場面を授業等で仕掛けていく。 ○身についた力を主体的に活用できる場についても意識的に仕掛けていく。 |

| | | | | | | | |
|---------|---------------------------|---|---|--|---|---|--|
| | | ○健康や食に関する取組や体力づくりを進め、学習の土台づくりをする。 | B | ○養護教諭による保健指導や栄養教諭による食育指導、また年間計画に基づいた業間体育を実施するなど体力づくりや健康に関する啓発、食に関する取り組み等ができた。 | B | ○食育や健康に関する啓発の継続を。 | ○今後も、計画的・組織的に継続して取り組んでいく。 ○保護者や家庭にも積極的に啓発を行い、連携・協働して取り組む。 |
| 信頼される学校 | 3 一人一人が大切にされ、安全に学べる学校にする。 | ○楽しい学校づくりのため、意識調査や生活調査等を活用して学級集団づくりを計画的にすすめる。 | B | ○各学級担任が子どもの居場所を保障し自尊感情を高めるとともに、教職員間で児童の情報を共有することができ、個別支援にもつなげた。 | B | ○「学校は楽しい」がいいですね。どんな調査でしょう（意識調査、生活調査）。 ○児童のほとんどが「学校へ行くのが楽しい」と回答している。成果が出ている。 | ○日常的に、子どもの様子や状態をしっかり見取り、教職員間で情報を共有し、学級集団づくりや児童支援、個別対応の在り方を再確認し実践につなげていく。 |
| | | ○専門委員会活動や縦割り班活動を通じてリーダーを育成し集団づくりを進める。 | B | ○自覚と責任をもって専門委員会活動や縦割り清掃活動等に取り組むことができる児童が多くなり、主体的に活動できるリーダーが育ちつつある。 | B | ○小規模校の良さが生かされるよう、様々な場面で子ども同士の関わりやつながりを強めるように取り組んでほしい。 | ○学校行事や日常的な活動の中で、児童が自信を持ち、友だち同士で関わり合い、主体的に取り組める場面を設定し仕掛けていく。 |
| | | ○特別な教育的支援の必要な子どもに対する取組を組織的・計画的に進める。 | B | ○校内支援会等で、特別に支援を要する児童の様子や支援方法を確認し、継続的に取り組んでいる。まだまだ、課題も多く十分な成果につながっていない。 | B | ○学校評価の中で、課題が残るとあるがどういった事か？ | ○OSCやSSW等の外部機関を交えた校内支援会を計画的に実施するとともに、教職員間で共通理解を図り、学校全体で支援の方向性を確認しブレのないように取り組んでいく。 |
| | | ○子どもや保護者が悩みを相談しやすい学校にする。 | B | ○保護者との情報共有や児童との関わりを大切に丁寧に対応しているが、児童や保護者の相談に十分応えられていない場合もある。 | B | ○悩みを相談できない親への対応は？ ○相談できない児童も保護者もいますね。 ○保護者と学校の信頼関係、子どもが安心して授業に取り組むために、教員一人ひとりのカウンセリングマインドを大切にしてほしい。 | ○トラブル発生時等にも迅速かつ丁寧に対応し、保護者との連絡も密に取り合うことで信頼関係を構築していく。 ○児童や保護者が相談しやすい環境・関係作りを進めていく。 |
| | | ○防災教育や危機管理体制を充実させ、子どもの安全を確保する。 | B | ○計画的な避難訓練の実施や少年防災クラブ活動等を通して、安全教育の質を高め、啓発している。 ○日頃より教職員間でも危機意識を高めるよう努めているが、十分とはいえない。 | B | ○津波危険地域ならではの工夫した防災学習、訓練も。 | ○様々な想定での訓練を計画的に実施するとともに、教員間での振り返り確認等を行い、学校安全への意識と指導力の向上に努める。 ○地域の方々や関係機関と連携し、防災学習・避難訓練等の活動を充実させる。 |

| | | | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|---|---|---|--|--|
| 4 開かれた学校づくりを進め、保護者や地域の方々とともに子どもを育てる。 | ○学校だよりやホームページを通じて、学校の情報を積極的に提供する。 | B | ○「学校だより」や「各学年学級だより」、「あかっぴー」等の通信で情報発信はできた。ホームページでの情報発信・更新を更に充実させていく。 | B | ○学校評価アンケートに基づけば十分に達成していると思う。 ○保護者アンケートでは成果がうかがえる。 | ○定期的な各通信の発行とホームページ更新により、学校の状況や児童の様子を詳細に保護者や地域に発信し、連携・協働して取り組む「地域の学校」を目指す。 |
| | ○保護者や地域の方々と共に、いろいろな行事に取り組む。 | B | ○「どろめ祭り」や「絵金祭り」、「冬の夏祭り」等の地域行事に保護者や地域の方々と共に活動することができた。 | B | ○地域には様々な行事や取り組みがあるが、それらに直接学校の関わりがなくても、日々の子どもの会話や教員同士の情報共有によって関心を高め、地域の一員としての意識を育てるようしてほしい。 ○これも良くできているし、学校評価での達成状況も素晴らしい。 | ○保護者や地域と共に活動できる行事を企画・立案し、無理なく気軽に参加できる体制を構築していく。 ○保護者や地域と連携・協働を図り、地域行事にもできる限り参加する。 |
| | ○保護者に対して家庭学習の手引きなどを配布し、家庭学習の環境を整える。 | B | ○家庭学習の習慣が定着するよう日常的に働きかけている。 ○保護者にも啓発を続け、協力体制を呼びかける。 | B | ○参観日の持ち方、保護者同士のつながりを作ってあげる場。 ○家庭学習の環境を整えられない子どもの対応は？ ○家庭学習の定着に向けた更なる努力を。 ○学校評価に基づく。ただ、児童の家庭学習時間は伸びている | ○保護者への啓発、家庭学習への協力体制の構築を通信や参観日の懇談会時において働きかける。タブレット等 ICT 機器を活用し保護者と協働して取り組む。 |
| | ○保育所や他の小学校・中学校と連携し、共に取り組む活動を充実させる。 | B | ○保小、小中の交流活動は定期的に実施でき交流を深めることができた。中連携授業や体験入学、あいさつ運動も実施できた。 | B | ○小・中の連携だけでなく、市民館（児童館）、若杉等の組織との連携も必要ではと思う。 ○どのような小中連携授業があったのでしょうか。（中学校教諭による交流授業、体験入学） ○学校評価教職員アンケートに基づき、もっと高評価でいいと思います。 | ○よりよい活動内容を検討・協議し、児童・生徒同士や教職員同士がよりつながり合え、連携・協働していく活動にしていく仕組みをつくる。 |

【評価基準】 A－85%以上（十分満足） B－84～70%（おおむね満足） C－69～50%（もう少し努力すべき） D－50%未満（大いに努力が必要）

令和6年度 香南市学校評価報告書

| | |
|-------------|---|
| 経営理念 | <p>【児童一人一人が生涯にわたって、自律的によりよい生き方を目指すための基礎となる、豊かな心と確かな学力、健やかな体を身につける】</p> <p>学校教育目標：「かがやけ香我美！楽しい学校！～かしこく・やさしく・たくましく～」</p> <p>〈目指す児童像〉○仲間とともに伸びる子ども ○自分で考え最後までやりとげる子ども ○明るく元気な子ども ○人や自然と豊かな関わりがもてる子ども</p> <p>〈望む教師像〉 ○児童の心に寄り添う教師 ○豊かな教育力を持ち、児童や保護者に信頼される教師 ○協働・協調の精神、使命感ある教師</p> <p>〈求める学校像〉○授業が楽しい学校 ○仲間と集える学校 ○安心して通える学校 ○誰からも信頼される学校</p> <p>経営方針：学校教育目標に基づき、子ども自身が物事を判断し積極的かつ根気強く取組もうとする児童の育成を目指した学校経営を行う。</p> <p>〈全員が登校する学校〉 ○自他を大切にす ○よさを認め合い折り合う</p> <p>〈授業を改善する学校〉 ○資質・能力ベースの授業づくりを目指す ○日常の授業を改善する</p> <p>〈組織力を発揮する学校〉○課題解決に向け組織として対応する ○集団活動を通じ生きる力を高める</p> |
|-------------|---|

| 中期経営目標 | 短期経営目標 (評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 改善策 | |
|---|--|---|----|---|-----|---|
| | | 評価指標 | 評価 | | | |
| 豊かな心 心の居場所づくり 絆づくり ○自分への信頼の育成(自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 ○全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 ○心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的な生活習慣の定着 | ①自分自身のよさに対する自覚の向上(自尊感情・自己肯定感、規範意識、あいさつ、有用感) | ○学校生活アンケート「学校が楽しい」肯定的回答70%以上 ○道徳調査で、「自分にはよいところがある」肯定的回答80%以上 ○学校評価で、「きまりを守っている」肯定65%以上 | B | ◎「学校が楽しい」肯定的回答86.7%(強54.6%) ◎「自分にはよいところがある」肯定的回答82.3%(強52.3%) ◎「きまりを守っている」肯定的回答92.8%(強70.4%) | B | 【①④自己肯定感・特別活動】 ・「かがみっこノート」「言葉のシャワー」の取組継続、指導方法の工夫の共有を行う。 ・委員会活動の時間を確保し、異学年交流の発展等、活動内容の充実を目指す。 ・児童が企画運営する動きが見られていることから「任せる」自治活動に取り組む。 【②③生徒指導・教育支援】 ・教職員間での共通理解の場を設定(職員会での児童理解コーナー)し、組織的な支援体制を整える。 ・全校児童にも特性理解や対応の仕方について、発達段階に応じた指導が必要である。 ・困り感のある児童への対応は保護者の理解を得ながら医療機関との連携を図っていく。 【⑤運動・生活習慣】 ・基本的な生活習慣定着に向けて取組・啓発を継続していく。 ・今の児童や保護者に合った啓発の仕方を考え、啓発の方法を工夫する。 ・持久走大会に向けて、5分間走の回数をもう少し増やす。 ・日本一周カードの改善をし、児童の運動への意欲化を図る。 ・「体育、運動能力重点校」として、日常的な取組とともに体育副読本を活用し体育の授業改善に努める。 |
| | ②生徒指導上の諸課題改善に向けた効果的対応(長欠・不登校児童対応、問題行動発生率) | ○新規不登校児童0名 ○重大ないじめの発生0件 ○児童の暴力行為0件 | B | ◎新規不登校児童0達成 ◎重大ないじめは0件達成 ◎暴力行為 0件達成 | A | |
| | ③特別な教育支援の必要な児童に対応する校内体制の整備・実効性のある実践(情報共有、支援委員会、校内研、Q-U、SC、SSW活用) | ○校内支援会の開催(月1回) ○学校生活アンケートで、学校満足度が70%以上 ○学校評価「先生は相談に答えてくれる」肯定的回答85%以上 ○学校評価で、「先生は願いや意見を聞いてくれる」肯定的回答90%以上 | B | ◎校内支援会は、32回開催 ◎「学校満足度」肯定的回答87.6%(強54.6%) ▼「先生は相談に答えてくれる」肯定的回答 80.8%(強59.2%) ▼「先生は願いや意見を聞いてくれる」肯定的回答86.4%(強59.2%) | B | |
| | ④特別活動を中心とした絆づくりの推進(学級活動(1)、児童会、委員会、縦割り班活動) | ○「みんなで何かをするのは楽しい」肯定的回答85%以上 ○学校評価で、保護者からの評価「子ども達はあいさつをしている」肯定的回答60%以上にする ○児童会・委員会活動で、全校が楽しめる場を5回以上設ける | B | ◎みんなで何かをするのは楽しい」肯定的回答94.2%(強73.6%) ▼保護者の「あいさつ」に関する肯定的回答54.9%(16.2%) ◎集会活動6回達成 | B | |
| | ⑤安定した学校生活を支える多様な運動機会の提供と基本的な生活習慣への全校取組(かがみ元気っ子カード、体力調査) | ○元気っ子カードで、自分で決めた就寝時刻を守る65%以上 ○学校評価で、「学校は基本的な生活習慣の定着に努めている」肯定的回答70%以上 ○全国体力・運動能力調査男女ともT得点が47点を上回る | B | ◎就寝時間を守る72.2% ▼基本的な生活習慣の定着に努める肯定的回答68.8%(強30.1%) ◎運動能力は男子55.3、女子49.0 | B | |
| 確かな学力 学びの居場所づくり ○子どもが活躍する授業づくりの推進 ・基礎的・基本的な学習内容の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・主体的に学習に取り組む態度の育成 ・生徒指導の3機能を生かした授業づくり ・基礎学力の定着と体力の向上 ○学習習慣の定着 ・目的的家庭学習の提示 | ①基礎基本を培う授業(全国学力・学習状況調査、標準学力調査) | ○全国学力・学習状況調査と標準学力調査で、全国平均並みの学力を目指す ・全国学力調査は、国語・算数が全国平均-5P以内 ・標準学力調査は、2年～6年の国語・算数が全国平均-5P以上 | C | ◎全国学テで国算とも-2.0p ▼県版学力調査 4年:国語59.5(-0.9)算数49.2(-5.0) 5年:国語66.8(-2.0)算数58.6(-1.6)理科70.8(-2.7) ▼標準学力調査 1年:国語75.8(+1.8)算数76.7(-5) 2年:国語69.9(-6.0)算数66.0(-3.1) 3年:国語71.6(+9.3)算数75.4(+4.5) 6年:国語64.5(-5.4)算数59.5(-8.8) | C | 【①②③④学力向上】 ・言語活動(話す・書く等)において、個人差が大きくなってきているので、個に応じた支援の手立てを継続していく。書く頻度・量については考え直す必要がある。 ・「生きて働く知識・技能」の定着に努め、活用できる力を付ける。 【①②③授業づくり】 ※授業スタイルの見直し※ ・具体的な場面を実際の生活場面とつなげて、意欲や関心を高めたい必要がある。 ・公開授業で明らかになった課題について、全教員で取り組むことについて共有・検証していくために、見える化する。 ・タブレットや電子黒板等のICT機器を活用した授業づくりについて、相互交流やICT支援員の助言等をもとに研究を深めていく必要がある。有効な授業場面についても今後検討が必要である。 ・子どもの主体的な姿を引き出すための第一歩として、子どもが自分の立場(賛成・反対・困っているなど)を決めて課題解決に臨むことが良いと考える。 【②③校内研】 ブロック研は、各自1本を継続すると良いと考える。 |
| | ②自分の考えを発表して話し合ったり、練り合ったりする授業(学習アンケート、学校評価) | ○学校評価で「勉強・運動の力が伸びている」の肯定的回答84%以上にする ○学校評価で「授業が分かっている」の肯定的回答84%以上にする ○学習アンケートで「思考」肯定的回答80%以上「協働学習」肯定的回答80%以上「発表」の肯定的回答70%以上「自分の考えを表現する」肯定的回答70%以上 ○授業でのタブレット活用状況80%以上 | C | ◎「勉強・運動の力が伸びている」肯定的回答84.8%(強52.8%) ◎「授業が分かっている」肯定的回答88.8%(強40.%) ▼「思考」肯定的回答82.3%(強50%) ▼「ペア学習」75.9%(強54.3%) ▼「発表」60.8%(強35.8%) ▼「考えを表現する」62.5%(強36.6%) ◎タブレット活用全学級100%活用 | B | |
| | ③生徒指導の3機能の視点に立った指導(授業スタンダード等を授業づくりに生かした授業改善、めあて・まとめの明示) | ○「めあて・まとめ・振り返り」といった授業スタンダードが日頃の授業に定着している90%以上にする ○学習アンケートで「グループで考えることが好き」の肯定的回答85%以上にする ○学校評価で「先生は授業改善の工夫や努力をしている」肯定回答95%以上にする | C | ▼授業スタンダードの定着約85% ▼「グループで考える」肯定的回答76.3%(強54.3%) ▼「授業改善に工夫・努力」肯定的回答90.4%(強68%) | B | |

| | | | | | | | | |
|---------|--|---|---|---|---|---|---|--|
| | ④家庭学習の習慣化への取組(家庭学習時間・自主学習ノート展) | ○学習アンケートで、低学年、中学年、高学年ごとの家庭学習時間が守れた割合75%以上にする ○タブレットを家庭に持ち帰り家庭学習に活用する | C | ▼家庭学習時間 全校68.8% (低)72.7%(中)85.1%(高)48.5% ▼タブレット週末持ち帰りは実施 中 | C | ・タブレットを活用した家庭学習は効果的で、意欲も見られるが、学習時間の短さから学習時間や内容を検討していくことが望まれる。 | 【④家庭学習】 ・“家庭学習の手引き”について、年度初めだけでなく、懇談や通信などで広くアナウンスをする。良い取組を通信にして全校に紹介する(本人のコメント付き)ことで、家庭での声掛けにつながるように工夫することも検討する。 | |
| 信頼される学校 | ○保護者や地域に信頼され、期待される学校づくりの確立 ・中学校区連携 ・情報発信 ○危機管理体制の整備 ・避難訓練 ・危機管理マニュアルの修正 | ①保護者や地域への積極的な情報発信(学校・学年・学級だより) | ○学校だよりを1月に2回以上発行 ○学級・学年だより平均月1回以上発行 ○学校評価で、「情報発信」の肯定的評価80%以上にする | A | ◎学校だより月3~4回発行 ◎学年・学級だよりは月1回以上発行。低学年は毎週発行している。 ◎「情報発信」の保護者肯定的評価83.1%(強41.5%) | A | ・学校、学級の方針や大事にしたいこと、子ども達の様子もよくわかり、よい「情報発信」ができています。 | 【①②保護者・地域との連携】 ・地域学校協働本部事業の活性化に向けて、年間活動計画を作成し、「地域の学校」という意識を高める。 ・「すぐる」「紙媒体」を活用し、学校の状況の細やかな発信に努める。 ・教職員が、一人一人の子ども声(表情・しぐさ等含め)を聴き寄り添い、子ども達が安心して学校生活を送ることができるよう努める。 【③④】 ・教師間での発言しやすい風通しのよい関係と、子ども達の状況の共有が円滑になるよう、「人・もの・こと」のよりよい教育環境づくりを行う。教員も大事な環境であることを再確認する ・教職員同士のコミュニケーションを大切に、学校で「やる気」「元気」「笑顔」が出る、安心・安全な子ども達の居場所づくりに努める。 ・不祥事防止、危機管理について「自分事」として捉えることができる研修及び訓練方法を検討し計画を立てる。 |
| | | ②保護者や地域と連携した学校行事等の工夫と中学校区連携による教育活動(学校運営協議会、地域学校協働本部) | ○保護者と意見交換できる場を5回以上設ける ○地域学校協働本部の活動が、のべ年130回以上・のべ600名を目指す ○香我美中学校区連携の取組は、計画の85%以上を実施する | B | ◎学年・学級懇談、地区懇談会10回開催 ▼協働本部活動99回・人数のべ415名 ◎中学校区の連携は計画通り実施 | B | ・保護者や地域との交流の場があり取組を継続してほしい。 ・次年度は年間活動計画のもとさらに充実した活動になることを期待する。 | |
| | | ③学校評価・学校関係者評価の実施(結果公表、学校運営への反映、学校運営協議会の実施) | ○学校評価アンケートは計画的に実施し、結果を保護者や地域に返す ○学校評価で「保護者の意見を運営に生かす」肯定評価60%以上 | B | ◎学校評価アンケートは計画通り実施 ▼「保護者の意見を運営に生かす」50.7%(強18.9%) | B | ・取組については計画的に行っているが、保護者の理解が得られるよう工夫していく必要がある。 | |
| | | ④危機管理マニュアルの活用と危険予知能力の向上(防災・不審者訓練、安全指導・安全点検、香南地区防災訓練) | ○学校評価で、「危機管理」肯定的評価90%以上にする ○設定・内容等を工夫した避難訓練を実施する | B | ▼「危機管理」に関する肯定的回答 児童94.4% 保護者70.4% ◎避難訓練年間5回実施済 ◎学期ごとに安全点検の実施 ◎「危機管理マニュアル」の見直し、周知 ◎引渡し訓練の実施 ◎「不祥事防止」の計画の運用研修及び日常的なコミュニケーション | B | ・「不祥事防止」「危機管理」の取組は継続すること。特に「引き渡し訓練」の方法(場所・時期)は検討が必要である。 | |

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

令和6年度 香南市学校評価報告書

| | |
|------|--|
| 経営理念 | 【学校経営理念】学び合い・関わり合い、自ら伸びる学校づくり |
| | 【学校経営方針】《学び合い》学びて“たかまる”学校 《関わり合い》関わり“つながる”学校 《自ら伸びる》夢を語り“ひろがる”学校 |
| | 【学校教育目標】伝え合い 学び合う 佐古小学校 |

| 短期計画 目標<単年度の到達指標> | 具体的な取組 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 年度末検証 |
|--|--|---|--|--|--|----|-------|
| | | 目標指標達成度 | 到達状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| 【全国学力学習状況調査正答率】(国・算)全国・高知県平均以上 【高知県学力定着状況調査目標値との差】(国・算・理)目標値以上 【標準学力調査正答率】(国・算)目標値以上 【学力調査正答率】経年比較での向上 【魅力生活アンケート】「授業に主体的に取り組んでいる」強肯定74%以上「授業がよく分かる」強肯定73% 【学校アンケート】「話し合いを通じて、友達のことを参考にして、自分の考えを広げている」肯定93%以上 【生活がんばりカード】家庭学習(低20分・中40分・高60分以上)90%以上 | 自ら学びに向かう授業づくり ①外国語の授業研究を基盤として主体性を伸ばす授業づくりを行う。 ②児童一人一人が学び方を学び、学ぶ力を育成する授業に勤める。 ③書くことに重点をおいた実践を計画的に行う。 | 【全国学力学習状況調査正答率】(国・算)全国・高知県平均以上 【高知県学力定着状況調査目標値との差】(国・算・理)目標値以上 【標準学力調査正答率】(国・算)目標値以上 【学力調査正答率】経年比較での向上 | 【全国学力学習状況調査正答率】 国語:全国67.7、高知県68、自校62 算数:全国63.4高知県63自校59 【高知県学力学習状況調査正答率】 県平均との差 4年 国語+1.8、算数+0.6 5年 国語-2.9、算数-2.3、理科-1.4 【12月実施:標準学力調査正答率】 目標値との差 1年 国語:+9.6、算数:+9.8 2年 国語:0、算数:+0.4 3年 国語:+7 算数:-1 全校的に見ると、昨年よりも向上傾向にある。 | B ○全体的に学力は昨年度よりも向上傾向にあるように思う。それぞれの学年で全国平均以上を目指してもらいたい。 ○タブレット活用がどうなのか。効果的な使い方になっているのか。どこで使うのか教材研究を行っていくことを大切にしたい。 ○落ち着いた学習できる雰囲気を作れているので今後も検証と改善を繰り返しながら、子どもたちに学力が定着する取り組みに向上させていきたい。 ○生活がんばりカードが家庭学習の定着につながる取り組みだと思っているので、継続して取り組んでほしい。 | B ①全教員(担任・専科)が公開授業を行うことができた。 ②調査を実施して、分析を授業改善につなげることができた。しかし、具体的な手立てにまで至っていない。分析方法について、研修が必要。 ③各学年で高知新聞「読もっか」への投稿に積極的に取り組むことができた。 ④各種学力調査の結果から課題を分析し、各学年で取り組んできたが、十分に改善できていない部分がある。 ⑤校外研修については掲示板や資料回覧での情報共有に留まっており、伝達研修の時間の確保が課題である。 ⑥タブレット活用について研修を行い基礎的な理解や効果的な活用につなげることができた。効果的な場面や協働的な学びをどう深めていくのか、更に研究を深める必要がある。 ⑦通級指導教室での指導や支援の方法について共有することができた。今後は、有効な支援方法について、一人一人の教員のスキルアップを図ってきたい。 | | |
| | 子供にわかる授業づくり ④標準学力調査・全国学力状況調査・高知県学力定着状況調査を分析して課題対応を行う。 | ・「授業に主体的に取り組んでいる」強肯定74%以上 ・「授業がよく分かる」強肯定73% | ①「授業に主体的に取り組んでいる」強肯定61.6%(目標値-12.4%) 「授業がよく分かる」強肯定67.3%(目標値-5.7%) 「話し合いを通じて、友達のことを参考にして、自分の考えを広げている」肯定90.1%(目標値-2.9%) | | | | |
| | ⑤校外研修に参加し、研修内容を校内で伝達する。 | ・「話し合いを通じて、友達のことを参考にして、自分の考えを広げている」肯定93%以上 ・家庭学習(低20分・中40分・高60分以上)90%以上 | ②児童一人一人が学び方を学び、学ぶ力を育成する授業に努めることができた。 | | | | |
| | ⑥ICTを積極的に活用し、指導力向上に取り組む。 | ⑧「家庭学習のすすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図る。 | ③条件作文等を通して「書くこと」に重点を置いた指導を行うことができた。 | | | | |
| | ⑦学習支援が必要な児童を対象に、通級指導教室や放課後等の個別指導を行う。 | ⑨授業につながる学習課題を与える。 | ④標準学力調査を分析して課題対応を行った。 ⑤⑥授業を見合っ、指導力を向上させた。様々な場面で端末を活用できるように取り組んだ。外部講師から教育DXについて学んだり、教職員同士で実践を通じた学びの交流をしたりすることができた。 | | | | |
| | ⑧「家庭学習のすすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図る。 | | ⑦学習支援が必要な児童を対象として、通級教室や放課後等の個別指 | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|---|--|--|---|--|--|--|
| | | | | <p>導を行った。通級教室における有効な支援について共有した。</p> <p>⑧「家庭学習のすすめ」と「自主学習の手引き」を配布して家庭学習の習慣化を図った。家庭学習(低20分・中40分・高60分以上)1学期76.2%⇒2学期78.7%(目標値-10%以上)</p> <p>⑨授業につながる学習課題を与えた。(タブレットドリルを含む)</p> | | | <p>⑧放課後学習や、自主学習展などの取組を実施することができた。</p> <p>⑨デジタルドリルを活用し、個別に課題を出すなど進んだ取り組みができた。</p> | |
| 徳 | <p>「学校が楽しい」95%</p> <p>「みんなで何かをするのが楽しい」97%</p> <p>「道徳の授業が好き」…90%</p> <p>「自分にはよいところがある」90%</p> <p>「人が困っている時は進んで助ける」低95%。中、高95%</p> <p>「誰にでも進んで挨拶ができる」96%</p> <p>「先生は話を聞いてくれる」98%</p> | <p>自尊感情を育む授業づくり</p> <p>①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。</p> <p>②授業や特別活動を通して道徳項目の行動化と啓発に努める。</p> | <p>①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。</p> <p>②授業や特別活動を通して、道徳項目と行動かど啓発に努める。</p> <p>③児童理解のコーナーで支援方法や見守りについて共有し合う。特別支援学級の授業公開を行い、全教職員の児童理解を深めていく。</p> <p>④ありがとうカードを学期に1度、取り組むようにし、学年を超えた交流の機会をもったり、友だちの良いところを見つけを継続的に行ったりする。</p> <p>⑤あいさつの日常化を意識化を図り、取組を工夫して継続して行う。</p> | <p>「学校が楽しい」は90.2%で強肯定が68.6%「道徳の授業が好きだ」は93.6%。「自分には良いところがある」は89.9%「人が困ってる時は進んで助ける」94.4%。</p> <p>①各学年で年間1回の授業公開を行なった。</p> <p>②道徳アンケートを2回実施した。「高知の道徳」は夏休みの課題で活用した。</p> <p>③全職員で児童理解の共有を行ってきたので、継続し児童の実態や状況を把握していく。また、家庭背景についても共有できた。全学級の特別支援学級の公開授業を行うことができた。来年度は全校研に位置付けをして実施したい。</p> <p>④ありがとうカードは、友だちと互いに書き合うことができ、昼の放送時に紹介したことで、自己肯定感を高め合うことにつながっている。継続して行っていくようにする。</p> <p>⑤あいさつ運動を学校、地域が連携して行うことができた。今後も日常的にできるよう挨拶ができるよう意識化を図っていく。</p> | B | <p>○「学校が楽しい」は90.2%で指標には届いていないが、取り組んでいる内容は大変良いもので評価ができる。先生方はよく頑張っていると思う。</p> <p>○あいさつ運動が定着している。あいさつができる子どもが増えている。また、言えない子どもも、領いたりこっとしたりして意思表示ができるようになってきている。その一方で、先生のあいさつに元気を感ぜないことがある。先生が良いモデルになって欲しい。</p> | A | <p>①道徳スタンダードや授業づくり講座の研修内容の報告を行うことができた。</p> <p>②一人一回の授業公開を行い、通信などで保護者にも広げていくことができた。道徳意識調査の検証を行うことができた。各学年で、改善策等を考えてもらうこともできた。</p> <p>③計画通り支援会を実施し、児童の状況を見て必要に応じて支援にあたる人員の配置換えや、個別の配慮を工夫した。</p> <p>④計画的にありがとうカードの取組を行うことができた。学級で友だちのよいところを見つける場面を設定し、教員内で取り組み内容の把握・共有をすることもできた。</p> <p>⑤児童会での旗の製作、集会や代表委員会でのよびかけなど児童が取り組み方を考え実行できた。さらなる啓発の工夫が必要。</p> |

| | | | | | | | |
|---|--|------------------------|---|--|---|--|---|
| 体 | <p>【全国体力・運動能力調査】 体力合計点全国平均以下、D・E評価割合25%以下 【学校づくりアンケート】 「体を動かすのが好き」肯定90%以上 「体育の授業が好き」肯定90%以上 「学校のきまりを守っている」肯定94%以上 「ここの子ども体力・運動能力プログラム」を活用した授業を行った100% 「生活がんばりカード」自分で設定した目標達成90%以上</p> | <p>体力が向上する授業づくり</p> | <p>①体育の時間に帯びタイムを設定し、「体力アップチャレンジカード」や「ここの子ども体力・運動能力向上プログラム」に取り組む。</p> <p>②「わたしたちの体育」を活用する。</p> | <p>①②体育の時間に帯びタイムとして「ここの子ども体力・運動能力向上プログラム」を設定し、単元の主運動につなげるとともに、体力向上も図る。</p> <p>③学期ごとに自分で目標を設定した生活がんばりカードを実施し、課題を見つけ、次の取組に生かし改善する。</p> <p>④生活習慣、いのちの学習、喫煙防止、薬物乱用防止の教室を関係機関と連携して行う。</p> | <p>【全国体力・運動能力調査】 D・E評価割合32.9% 【学校アンケート】 「体を動かすのが好き」92.6%「体育の授業が好き」94.4% 上記2項目はいずれも到達指標を達成することができた。しかし、いずれも肯定的評価をしていない児童があり、全国体力・運動能力調査D・E評価割合も高い。授業内に「ここの子ども体力・運動能力プログラム」を設定して技能向上を目指すとともに、受容感を感じられる授業づくりを行うことで体育の授業が好き」児童の割合95%以上を目指す。 「学校のきまりを守っている」93.1%引き続き各学期で佐古小の約束を伝えていく。また、「チャイム着席コンテスト」など、折を見て各学級で学校のきまりを意識する時間をとる。 ①②「ここの子ども体力・運動能力プログラム」を活用した授業を行ったが100%。中間検証を経て、各学年・学級に呼びかけをし、単元ごとに「ここの子ども体力・運動能力プログラム」を実施できた。1学期の校内研修に加えて、2学期にはメンターチーム会の際に、体育の指導方法に関する研修を行った。 ③自分で目標を設定したががんばりカードを実施している。生活リズムはよくなっている傾向がみられるが、自分で設定した目標は、達成できていない(1学期:82.7%→2学期:76.7%)。児童の様子をみて継続したり改善したりして自分にあわせた目標を立てさせる。 ④外部講師による生活習慣、いのちの学習、喫煙防止、薬物乱用防止の教室はすべて予定通り行うことができた。</p> | <p>○日常的に体力向上を図る取り組みを工夫して行って欲しい。</p> <p>○生活がんばりカードが家庭学習の定着につながっていると思うので、継続して取り組んでもらいたい。</p> <p>○生活リズムの改善に向けて個人で決めた目標を学級全体で共有するなどしてはどうだろうか。工夫していくことも必要。また、個人の取組を見える化していくことも大切。</p> <p>○生活習慣を整えていく取り組みを、関係機関と連携して行っていくことは、ぜひ今後も継続して欲しい。</p> | <p>①②「ここの子ども体力・運動能力向上プログラム」への取組は、年度当初、周知不足があったが、校内研修などを行ったことで100%となった。体幹トレーニングを朝の会で実施している学年もある。全国体力・運動能力調査D・E評価割合も高い。授業内に「ここの子ども体力・運動能力プログラム」を設定して技能向上を目指すとともに、受容感を感じられる授業づくりを行っていきたい。</p> <p>③自己目標を設定して取り組むことを来年度も工夫して継続したい。学級内での共有や話し合いなどを入れていくと、取組の質が高まっていくのではないか思う。また、引き続き家庭への協力を呼び掛けていく。</p> <p>④引き続き、関係機関との連携を系統的・計画的に実施していく。</p> |
| | | <p>生活習慣への自己管理意識の向上</p> | <p>③生活がんばりカードに取り組む。</p> <p>④関係機関と連携した教室を実施する。</p> | <p>生活習慣への自己管理意識の向上</p> | <p>B</p> | <p>B</p> | |

| | | | | | | | |
|--|-----------------------------|--|--|--|---|---|---|
| <p>【働き方改革の推進】 教職員の時間外在校等時間が月平均40時間未満にする。 【安全教育・安全管理の充実】 「いつどこで地震が発生しても、自分の身を守る事ができる」100%「学校は安全意識(防災、交通安全生活安全)を高める取組をしている」強肯定60%以上 【家庭・地域との連携】 「学校は家庭への情報提供を積極的に行っている」強肯定70%以上 「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定50%以上 学校だより、学年だより月1回発行校長だより「さくらだより」月4回以上発行</p> | <p>働き方改革の推進</p> | <p>①メンター制と教科担任制の効果的な運用について研究を進め、勤務時間外在校等時間の減少につなげる。個別面談を通して、働き方改革への意識向上を図る。</p> | <p>①教職員の時間外在校等時間が月平均40時間未満にする。 ②「いつどこで地震が発生しても、自分の身を守る事ができる」100%「学校は安全意識(防災、交通安全、生活安全)を高める取組をしている」強肯定60%以上 ③「学校は家庭への情報提供を積極的に行っている」強肯定70%以上 「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定50%以上 学校だより、学年だより月1回発行。校長だより「さくらだより」月4回以上発行。</p> | <p>①R6年4月～9月においては、27時間9分。昨年度より削減している。 ②「いつどこで地震が発生しても、自分の身を守る事ができる」90.5%「学校は安全意識(防災、交通安全、生活安全)を高める取組をしている」強肯定47.8% 年間を通して、避難訓練は計画的にできているが、自分事として参加できるような工夫が必要。 ③「学校は家庭への情報提供を積極的に行っている」強肯定58.6% 「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定29.3% 今後、保護者ともっと対話できる場面を作っていきたい。</p> | <p>○昨年度より超過在校等時間人数が減少しているのて継続して取り組むとよい。 ○社会見学の際に、避難タワーを見学したり体験活動を入れたり工夫をしてみてもどうか。 ○佐古祭りでの子どもの活躍が素晴らしい。また、教員も協力的で祭りを盛り上げてくれている。今後も一緒に祭りを大事にして取り組んで欲しい。</p> | <p>○昨年度より超過在校等時間人数が減少しているのて継続して取り組むとよい。 ○社会見学の際に、避難タワーを見学したり体験活動を入れたり工夫をしてみてもどうか。 ○佐古祭りでの子どもの活躍が素晴らしい。また、教員も協力的で祭りを盛り上げてくれている。今後も一緒に祭りを大事にして取り組んで欲しい。</p> | <p>①教科担任制を取り入れたことで、学年団や学校全体で児童理解を深めることができた。また、効率よく授業準備や教材研究ができ、時間外在校時間の減少に繋がった。一方、年間を通して時間外在校時間が多い教員もおり、さらに業務改善を検討する必要がある。 ②学年に応じた防災学習に取り組むことができた。危機管理マニュアルも見直しを行うことができた。 ③あいさつ運動が定着している。また、クラブ活動や学習支援へのボランティアの人数を増やすことができ、地域学校協働活動が前進した。</p> |
| | <p>安全教育</p> | <p>②県学校安全プログラム等を参考としながら、学年の系統性を考えたカリキュラムに改善する。地域の防災課題に応じた危機管理マニュアルの見直しを行う。</p> | <p>③地域学校協働活動の充実 ・学校運営協議会を定期的に開催し、コミュニティ・スクールの定着と地域学校協働活動の促進を図る。 ・コミュニティスクールに関する啓発活動を行う。</p> | <p>①年間を通して、計画的に不祥事防止についての研修や取組を実施する。 ②不祥事防止委員会を定期的に開催する。 ③学期に1回、面談を実施する。 ④学校運営協議会に報告し協議を行う。</p> | <p>①計画的に取り組むことができた。また、強化月間では、掲示物など見える化して意識が高まるような工夫を行った。 ②企画の場で確認をするなど実施することができた。 ③個別に声掛けなど行うことで、一人一人の困り感や心の安定感などを把握することができた。 ④学校運営協議会で報告を行い、ご意見もいただきたい。</p> | <p>○サービスについての研修などを実施し、意識を高めて欲しい。 ○先生方がお互いを大事にしあう雰囲気があるので、安心している。</p> | <p>○サービスについての研修などを実施し、意識を高めて欲しい。 ○先生方がお互いを大事にしあう雰囲気があるので、安心している。</p> |
| <p>不祥事を生じさせない職場風土づくり</p> | <p>働きやすい職場・働きがいのある職場づくり</p> | <p>4月：不祥事防止委員会、教育公務員としての服務について研修 5月：メンタルヘルスマン間、個人面談 6月：ハラスメント防止月間、メンタルヘルスマン間 7月・8月：研修、個人面談 9月：交通違反防止月間 10月：研修 11月：ハラスメント防止月間、メンタルヘルスマン間 12月：交通違反防止月間 1月：研修 2月：ハラスメント防止月間、メンタルヘルスマン間、個人面談</p> | <p>①年間を通して、計画的に不祥事防止についての研修や取組を実施する。 ②不祥事防止委員会を定期的に開催する。 ③学期に1回、面談を実施する。 ④学校運営協議会に報告し協議を行う。</p> | <p>①計画的に取り組むことができた。また、強化月間では、掲示物など見える化して意識が高まるような工夫を行った。 ②企画の場で確認をするなど実施することができた。 ③個別に声掛けなど行うことで、一人一人の困り感や心の安定感などを把握することができた。 ④学校運営協議会で報告を行い、ご意見もいただきたい。</p> | <p>○サービスについての研修などを実施し、意識を高めて欲しい。 ○先生方がお互いを大事にしあう雰囲気があるので、安心している。</p> | <p>○サービスについての研修などを実施し、意識を高めて欲しい。 ○先生方がお互いを大事にしあう雰囲気があるので、安心している。</p> | <p>①②計画的に研修や呼びかけなど、取り組むことができた。意識の高まりを感じている。 ③学校運営協議会や委員の方に、いつでも相談や報告できる関係がある。話を聴いてくださり助言もいただけるので大変有難い。</p> |

【自己評価のめやす】(取組評価指標平均と目標指標達成割合を目安とする)

《A》達成できた

・取組評価 85%以上、到達状況9割

《B》どちらかといえば達成できた

・取組評価 75%以上、到達状況 8 割以上

《C》どちらかといえば達成できなかった

・取組評価 65%以上、到達状況 6 割以上

《D》達成できなかった

・取組評価 65%未満、到達状況 6 割未満

令和6年度 香南市学校評価報告書

| | |
|------|--|
| 経営理念 | <p>【学校経営理念】 子供一人一人の存在を大切にする学校づくり</p> <p>【学校経営方針】 一人一人のよさや違いを認める。子供が学校に来たくなくなるような授業や行事を行う。チームで子供の育ちを支える。</p> <p>【学校教育目標】 笑顔と「ありがとう」があふれる学校</p> <p>【目指す児童像】 思いや考えを表現しようとする子 自分や友だちを大切にする子 あきらめないでがんばる子</p> |
|------|--|

| 短期計画目標<到達指標> | 具体的な取組 | 学校の自己評価 | | 学校関係者評価 | | 年度末検証(改善策等) | |
|--------------|---|--|---|---------|---|-------------|--|
| | | 達成状況 | 評価 | 考 察 | 評 価 | | |
| 知 | <p>1. 教員の教科等指導力の向上</p> <p>・各種学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上</p> <p>・全国学力・学習状況調査「授業では、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか」肯定的回答が全国平均以上</p> | <p>1. 教員の教科等指導力の向上</p> <p>(1)全教員授業公開(年1回)</p> <p>・全校研国語3本(2・4・5年)</p> <p>・ブロック研3本(1・3・6年)</p> <p>・学年研</p> <p>・野市小版授業力チェックシート(平均3.5以上)</p> <p>(2)各種学力調査の結果を基に、強みと弱みを分析し、授業改善を図る。</p> <p>・分析会や校内研修(年4回以上実施)</p> | <p>①全国学調平均全国比 6年国66.0(-1.7)・算60.0(-3.4)</p> <p>「授業では、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか」 84.1(+2.2)</p> <p>②県学調平均全国比 4年国68.2(+4)・算67.3(+2.5) 5年国69.7(-0.2)・算50.6(-7.7) ・理54.7(-11.6)</p> <p>③標準学調平均全国値比 1年国63.8(-10.2)・算74.7(-6.4) 2年国77.1(+1.2)・算69.1(±0) 3年国69.0(+6.7)・算76.1(+5.2) 6年国67.5(-2.4)・算64.6(-2.7)</p> | B | <p>・多少平均より低い学年もあるが、卒業までにしっかり学力をつけるのを期待する。</p> <p>・全国比相当の学力はしっかりとつけてほしい。</p> <p>・全国平均よりかなり低い教科もあるが、指導力向上に努めていると思う。</p> <p>・学年によるところはある。先生方は頑張っていると思う。</p> <p>・あくまで数値目標に対する評価。相対的に全国比マイナスである以上、ある程度厳しく評価せざるを得ない。</p> <p>・授業では積極的に取り組んでいるように思うが、結果的には全国よりもマイナスポイントになり残念(高学年)。カリキュラムの兼ね合いがわからないが、先生が考える時間を与えながら進めていってほしいと思う。</p> <p>・職場からリタイアしてしまう教員の影響で、年々学校運営が難しくなっている表れでは？</p> <p>・官民一体となってサポートできるアクションが必要では？</p> <p>・我々は学校に対して何が出来るか？</p> | B | <p>・教員が指導力向上に努めていることは一定の評価を頂いた。しかし学力調査の結果で見ると、全国を大きく下回る教科や学年もあるため、課題をふまえた更なる授業改善や家庭学習習慣の取組等を進めていく。</p> <p>・定期的に、学校運営協議会委員による授業参観も実施し、意見を頂くことで、授業改善につなげる。</p> |
| | <p>2. 1人1台タブレット端末を「日常的」に活用する授業実践・教育活動の推進</p> <p>・ICTを効果的に活用した授業づくり研修・実践交流</p> <p>・授業チェックシート「教材や教具を工夫したり、ICTを効果的に活用したりしている。」(3.5以上)</p> | <p>2. デジタルドリル活用(のいちっ子タイム・家庭学習)</p> <p>(1)定期的な活用</p> <p>・低学年…週1回以上持ち帰り</p> <p>・高学年…週2回以上持ち帰りと週1回以上のいちっ子タイムでの活用</p> <p>・長期休みの持ち帰り学習</p> <p>(2)ICTを効果的に活用した授業改善</p> <p>(3)デジタルドリルの学習データを基にした授業改善</p> <p>(4)ICT活用自主研修実施</p> | <p>・Google classroomや生成AIについての活用研修、書画カメラや電子黒板の活用など4回の自主研修を実施。</p> <p>「教材や教具を工夫したり、ICTを効果的に活用したりしている。」(3.7)</p> <p>〈授業〉</p> <p>・週1回以上活用(2～5年生)</p> <p>〈家庭学習〉3年生以上毎日持ち帰る</p> <p>・1年生:デジタルドリル、写真撮影等</p> <p>・2年生:デジタルドリル、音読の録画</p> <p>・3年生:週1回算数</p> <p>・4年生:週2回漢字と算数</p> <p>・5年生・6年生:週1回算数</p> | B | <p>・ICT活用での成果があったのかの検証が必要だと思う。PC等は道具であるので使って成果が上がらないと意味がないと思う。</p> <p>・授業や家庭学習で活用されているが、その成果がどのように現れているのか。</p> <p>・視覚的な効果が得られる教材は積極的に活用するとよいと思う。</p> <p>・紙媒体とデジタルの良い所を活かして学力向上につながると思う。</p> <p>・視力への影響は？</p> <p>・まだ始まったばかりなので、これからより充実していくと思う。</p> <p>・ICTを利用することが目的化していないか常に見直しが必要。</p> | B | <p>・ICT活用の成果の見取り、検証が必要。その方法を探り、明らかにすることで、ポイントを押さえた積極的な端末の活用、学力向上につなげる。</p> <p>・ICT活用を目的にすることのないよう、授業DX指定を見据えて、紙媒体とデジタル(クラウド活用)の良さを互いに生かしながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。</p> <p>・一方で、児童の視力の様子についても養護教諭と連携を取りながら確かめ、児童の健康や安全にも留意した取組を進める。</p> |
| 徳 | <p>1. 生徒指導の充実</p> <p>・道徳意識調査「自分のよいところ」肯定87%以上</p> <p>・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」強肯定68%以上</p> | <p>1. 生徒指導の充実</p> <p>(1)学級経営に関する研修の実施、生徒指導上の四つの視点を意識した授業づくり、互見授業の実施(年3回以上)</p> <p>(2)学校行事・集会等の充実を目指す児童会活動を実施</p> <p>・なかよし班集会・全校集会の実施(月1回以上)</p> | <p>・道徳意識調査「自分にはよいところがあると思う」83.1%(-3.9)</p> <p>・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」強肯定66.5%(-1.5)</p> | B | <p>・「自尊感情」や「学校が楽しい」とも目標値をクリアしていないが、目標値が少し高め設定だったと思う。「学校が楽しい」の強肯定が66%は十分高いと思う。</p> <p>・目標値よりは低いが、教職員の日頃の声かけで児童は伸びていくと思う。</p> <p>・児童が活躍できる場が設定できていると思う。</p> <p>・Bでも良いが次の項目が高い目標を達成しているなら、この項目が達成されていないのは違和感があるから(逆に次の項目が未達ならこちらはB)。</p> <p>・「学校が楽しい」これまでずっと高い位置で推移していたので、なぜかなという疑問が生まれる。肩の力を抜いて楽しい学校づくりを！</p> | B | <p>・自尊感情について、また学校での過ごしやすさについて、実態に合った目標値となるよう見直しを図るとともに、これまで通り授業や学級活動、学校行事等の充実を図るように努める。</p> |

| | | | | |
|---|---|--|---|---|
| <p>2. いじめの防止</p> <p>・道徳意識調査「いじめはいけない」肯定95%</p> | <p>2. いじめの防止</p> <p>(1)いじめ重大事態化防止研修の実施</p> <p>(2)学校生活アンケートや道徳意識調査等を通じた問題の早期発見・改善</p> <p>(3)道徳アンケートと、それを基にしたいじめに関する道徳の授業・検証を実施(年2回)</p> | <p>・道徳意識調査「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。」肯定97%(+2)</p> | <p>B</p> <p>・いじめがいけないと思う児童の肯定97%は評価できると思う。 ・実際の場での早期発見・改善が重要。 ・いじめに対して認識は高いと思う。 ・道徳教育や人権教育、日々の全教育活動を通して更にいじめのない学校にと願っている。 ・しっかり取り組んでいると感じる。 ・毎年突き当たる大きな課題。100%になるのは無理だろうなと思っている。97%は、95%を超え成果を上げたと言えるのでは。 ・子どもにもそれぞれ考えがあり、達成目標を100%と設定することは難しいだろう。子ども同士の小さいいざござはあることが想定できる。それを解決していこうとする能力を、身に付けさせることが必要ではないか。</p> | <p>A</p> <p>・これまで行ってきた未然防止や早期発見を改めて徹底するとともに、小さいいじめも見逃さない姿勢を教員自ら示し、児童にも伝える。また、繰り返される嫌がらせの軽減やいじめの解消についても力を入れ、組織的・計画的に取り組む。</p> |
| <p>3. 不登校の予防と支援</p> <p>・個に応じた支援「難易度が違う活動内容や課題を用意し、子供が選択できる場面をつくる」達成率70% ・新規不登校7名以下</p> | <p>3. 不登校の予防と支援</p> <p>(1)教室内の1次支援を意識 ・チェック表を用い、教室内1次支援の状況を学期ごとにチェック実施率100%</p> <p>(2)児童の欠席状況を全教職員が把握。気になる児童は早期に支援会開催。対応策検討。</p> <p>(3)不登校が理由で欠席(連続3日以上)した児童の支援会等を開催100%</p> | <p>・個に応じた支援「難易度が違う活動内容や課題を用意し、子供が選択できる場面をつくる」達成率(75)%</p> <p>・新規不登校7名(目標値±0名) 不登校児童12名(昨年度比-10名) ※2学期末</p> | <p>B</p> <p>・本校の課題である不登校児童への対応であるが、新規の不登校児童を作らない取り組み、不登校児童の減少は評価できる。 ・様々な支援ができていていると思う。 ・対応も連携して良くやっていると感じる。 ・不登校が半減している点は評価すべき。 ・大きい生徒数を抱える中で75%は大きい。尽力されている先生方に頭が下がる。 ・問4「児童は悩みや困ったことがある場合、先生に相談できると思いますか(保護者64%)。問10「あなたは悩みや困ったことがある場合、教職員に相談できますか(保護者76%)。問4に対して保護者の評価が下がっていることに憂慮する。保護者と教職員の評価のズレに対して、学校としてどうしていくのか考える必要がある。</p> | <p>A</p> <p>・新規不登校を作らないよう、サポートルームを開設し、支援員の協力も得ながら不登校傾向の児童の居場所を確保する。 ・保護者や児童が相談しやすいよう、児童や保護者との関係づくりや学校からの発信(すぐーる、通信、HP等を活用)に努める。</p> |

| 短期計画目標<到達指標> | 具体的な取組 | 学校の自己評価 | | 学校関係者評価 | | 年度末検証(改善策等) |
|---|---|--|---|---|-----|-------------|
| | | 達成状況 | 評価 | 考 察 | 評 価 | |
| <p>1. 体力と技能の向上</p> <p>・体育アンケート「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施のいちっ子タイムと家庭学習での」において肯定80%以上</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全校D・E層20%以内</p> | <p>1. 体育の授業力向上</p> <p>(1)「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」活用方法の提案(学期ごと年間3回)</p> <p>(2)体育の「のいち授業スタンダード」定着を図り授業改善に努める。(授業提案年間2回)</p> | <p>・「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施している」肯定85%(+5)</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査全校D・E層 男子41.5%(D22.0%, E19.5%) 女子35.3%(D32.4%, E2.9%)</p> | <p>B</p> <p>・DE層の多さは研究の余地がある。普段から運動していない児童の体力作りに課題があるのでは。 ・学年によって運動能力に差があると思う。体育の授業の充実にも取組をお願いしたい。 ・車で送迎と体力、運動能力との関連はどうか? ・目標値の半分のため。</p> | <p>B</p> <p>・学年による取組の差がないよう、「体力・運動能力向上プログラム」や「のいち授業スタンダード」等の共通した取組を進める。 ・体力・運動能力、運動習慣等調査については、原因を分析するとともに、日常的な体力づくりにつながる活動・行事を見直す。 ・徒歩での自力通学について、家庭での協力を頂くよう、体力づくりの点からも継続して啓発を行う。</p> | | |
| <p>2. 健康教育</p> <p>・生活がんばりカード「早寝3日以上」達成68%以上 「早起き5日以上」達成65%以上 「朝ごはんを毎日食べていない」10%以内</p> | <p>2. 健康教育</p> <p>(1)生活・体力がんばりカードの結果を基に保健指導を行う。 ・生活・体力がんばりカード年3回実施。 ・身体測定時の保健指導年2回実施。</p> <p>(2)家庭への啓発活動 ・保健日より年12回以上発行。</p> <p>(3)肥満傾向児童の保護者に健康相談を実施 ・学習相談日に年2回実施</p> | <p>・生活がんばりカード 「早寝3日以上」67.6%(-0.4) 「早起き5日以上」56.5%(-8.5) 「朝ごはんを毎日食べていない」24.7%(+14.7)</p> | <p>B</p> <p>・本来家庭でのしつけが基盤になることを学校が肩代わりしている点が多いと思う。家庭への啓発も限界があり、対応の難しさを感じる。 ・朝ごはんの数値24.7%は問題が多い。 ・毎日朝食を食べていない児童が多いが、背景にどのような家庭状況があるか、どこまで踏み込んで調査や働きかけてよいか難しいと思う。 ・家庭の問題。これを学校評価にするのは難しいのでは。 ・保護者アンケートで厳しい内容がある中、この数字から課題を感じる。半分の子どもが朝食を食べていないのかと可哀そうでならない。これでは学校で頑張らせられない。 ・通知表の評価項目に家庭評価等を入れて評価するなど、学校の取組だけで改善できるものではない。逆に好事例はあるのか?</p> | <p>B</p> <p>・健康教育は必要だが、本来家庭で行うべき「早寝・早起き・朝ごはん」の取組について、学校評価の目標として掲げることはやめ、代わりに学校生活の中で取り組める内容に変更する。ただし、「生活がんばりカード」の取組は継続し、家庭への啓発を行う。</p> | | |

| | | | | | |
|--|--|---|---|--|---|
| 基盤となる体制等 | <p>1. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実</p> <p>・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」で95%以上(保護者) ・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」で95%以上(児童)</p> | <p>2. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実</p> <p>(1)防災参観日で、全学年で引き渡し訓練の実施(年1回) (2)実践力向上を目指した避難訓練の実施(年3回以上) (3)外部機関を活用した不審者研修の実施(年1回)</p> | <p>・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」 85%(+10) ・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」97%(+2) ・避難訓練及び引き渡し訓練を予定通り実施。</p> | <p>B</p> <p>・「安全教育に力を入れているのか」の目標値-10%は不審者対応など地震以外への取組が不十分と取られているのではないかと。 ・避難訓練がマンネリ化しないよう工夫をお願いしたい。 ・ハード面の問題もあるので、限られたツール、時間の中での取組とすれば、十分ではないかと。 ・単純に保護者評価を上げるなら、参観日と絡める回数を増やしたり、運動会の競技の一つにしたりするのはどうか。素早く机の下に隠れる。静かに集合する等、集団行動を競技化するなど。</p> | <p>B</p> <p>・避難訓練・不審者対応訓練等については、毎年想定を変えながら実施するとともに、学校だよりや掲示物などで保護者への積極的な周知を行う。 ・運動会の競技への導入については、検討・協議を行う。</p> |
| | <p>2. ワークライフバランスと働き方改革の推進</p> <p>・時間外勤務時間月45時間・年360時間以内を遵守できた教員の割合75%以上</p> | <p>4. 学校における働き方改革の推進</p> <p>・時間外勤務時間が特に多い教職員への定期的な働きかけ・面談の実施。 ・業務改善検討委員会の設置(年3回以上実施)</p> | <p>・時間外勤務時間月45時間・年360時間以内を遵守できた教員の割合47.7%(昨年比-27.3) ・行事・会議の削減・効率化に向けて定期的に検討・実行。</p> | <p>C</p> <p>・時間外勤務の目標値に届いていないためC評価は仕方ない。仕事量が多いのは理解できるが、仕事の効率化を進め、先生方みんなまで守っていかうという意識がないと進まないのではないかと。 ・時間外勤務を減らすのは現状のままでは難しいと思う。 ・年々改善している。 ・昨年との対比で考えればAをつけたいが、学力テストとの相関関係をとられるとBでとどめる。が、陰ながら非常に評価したい。 ・アウトソーシングできるところは任せる、見直す。これまでの当たり前を常に疑い、現状をブラッシュアップし続ける。</p> | <p>C</p> <p>・年々改善していることは評価されているが、目標値に届いていないため、次年度は新たな取組も必要。校務DX化や通知表2学期制とともに、外部人材に任せられる業務についても検討する。</p> |
| | <p>3. 教職員のメンタルヘルス対策の推進</p> <p>「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員95%以上</p> | <p>3. 教職員のメンタルヘルス対策の推進</p> <p>・臨機応変な面談の実施 ・若年教職員へのサポート体制の充実</p> | <p>「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員92%(+3)</p> | <p>B</p> <p>・教師の仕事にやりがいを感じるために、指導力の向上が根本にあると考える。そのため、人材が育つ、育てる職場環境づくりが重要だと思いが、研修等が増えると多忙感も増える等ジレンマを感じる。 ・高い志をもって教育に取り組んでくださっていると思う。 ・メンタルをやられる原因は何かをグリップし、地域をまきこんでサポートしていく。学校だけで解決しようとする視野が狭くなる。</p> | <p>B</p> <p>・指導力の向上につながる人材育成の職場環境を整える。そのためにメンター研修の充実を図るとともに日常的なサポート体制もつくる。また、外部人材の活用もできないか検討する。</p> |
| | <p>4. 保幼小の円滑な連携・接続の推進</p> <p>・各学期1回以上の交流実施 ・校内研修への参加年2回以上</p> | <p>3. 保幼小が互いの教育内容を理解し合う取組を実施</p> <p>・1学期中に年間の交流予定を各園と相談・決定。 ・新任者や各学年から1名以上、保育士体験や校内研修へ参加。</p> | <p>・年3回以上の交流実施済 ・野市幼稚園や野市保育所研修に校長・主幹教諭が参加。 ・野市保育所保育士体験・園内一日研修参加。</p> | <p>A</p> <p>・保幼小との連携は十分成果が出ていると思う。交流活動も成果が上がってきているように思う。 ・連携がとれていると思う。 ・引継ぎが大事だと思う。</p> | <p>A</p> <p>・現在取り組んでいることを着実に、次年度も実施するとともに、校種間の引き継ぎを丁寧に行うことを特に大切にする。 ・交流の意義について教職員に周知し、主体的に連携しようとする意識をもたせたい。</p> |
| <p>職場風土づくり</p> <p>不祥事を生じさせない職場の風土づくりの推進</p> <p>・継続的な研修の実施 ・教職員による不祥事件数(0件)の継続</p> | <p>・不祥事を生じさせないための研修(年1回以上) ・職員会での事例紹介等の実施。(各学期1回以上)</p> | <p>・新たに設けた不祥事防止委員会の計画に基づき、毎月研修を実施。県内の不祥事案について校内で周知。 ・教職員による不祥事件数(0件)継続。</p> | <p>A</p> <p>・全教職員で研修等に取り組み不祥事防止に努めていると思う。 ・0なので。 ・公務員法の厳格化しかない。県レベルで見ただけ、民間では考えられない不祥事内容。例) 酒気帯びでも解雇になる。</p> | <p>A</p> <p>・本年度立ち上げた「不祥事防止委員会」による研修や日常的な周知・啓発活動を、次年度も継続して行い、全教職員が「自分ごと」としての意識をもてるよう取り組む。</p> | |

令和6年度 学校評価書

| | |
|--------|--|
| 学校経営理念 | 児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。 <目指す学校像> ○確かな学力を育む学校 ○校風・伝統を大切に、気持ちのよい挨拶が交わされる爽やかな学校 ○清掃が行き届いた清潔で美しい学校 ○保護者・地域の人たちから信頼される学校 <目指す児童像> 【知】伝え合い、学び合う子…進んで学び、深く考え、行動できる 【徳】思いやりのある子…自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく 【体】健やかな子…忍耐強く、健康な心と体をもつ <目指す教師像> ○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師 ○豊かな人間性をもち、使命感にあふれた教師 ○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師 ○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師 |
|--------|--|

| | 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 |
|--------------|-------------------------|---|--|----|--|----|---|
| | | | 達成状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| I 豊かな心の育成 | (1)自己肯定感の育成や人間関係づくりを進める | ①i-check(年2回、1年生のみ12月に1回)を実施し、学級集団の状態を的確に把握して、よりよい学級集団づくりを進める。 ○1回目より2回目の数値を改善 ○i-checkのEグループ(自己肯定感が低く、人間関係に悩みを抱えている可能性がある)0名 | 本年度も、i-checkを年2回実施し(1年生は12月に1回)、学級の状況や児童一人ひとりの様子を把握し、より良い学級経営に役立てた。結果として、Eグループに該当する児童は2名(不登校児童を除く)で、自己肯定感の低さがうかがえた。Eグループの割合は1%と低いものの、不登校傾向の児童は2名おり、引き続き注意深く支援を続けている。なお、新たな不登校児童は確認されていない。学級内の大きな混乱や暴力行為はなく、児童が安心して過ごせる環境が保たれている。一方で、Eグループや不登校傾向の児童への支援として、校内支援会の開催、スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)・福祉や医療機関との連携を強化し、改善に向けた取組を進めている。 | B | 児童が安心して生活できる学級・学校づくりが進んでいる。学級満足度も全国平均を上回り、先生方の丁寧な関わりでの成果が表れている。児童が落ち着いて過ごせる環境は、学びや活動の意欲にもつながる。今後も児童の気持ちや特性を踏まえ、より良い学級経営に努めてほしい。 | B | 中期経営目標(1)を達成するために、児童が安心して過ごせる学校(学級)づくりを推進する。一人一人の個性や多様性を尊重し、授業だけでなく前教育活動を通じて互いに認め合う風土を育む。そのために、生徒指導の四機能(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成)を意識し、教科指導と生徒指導を一体化した授業づくりを進める。これらを全教職員が共通理解し、継続的に実践する。 |
| | | ②道徳教育を充実させる。(授業研究・道徳意識調査年2回) ○道徳意識調査で、「自分にはよいところがあると思う」、「頑張りたいことや目標をもっている」、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) | 各学級において、道徳の授業は計画的に実施され、考えを深め、議論する授業の充実を図った。道徳意識調査の「自分にはよいところがある」という問いに対する肯定的評価は、1学期末83.5%⇒2学期末85.8%(強肯定63.4%⇒55.0%)となり、目標値には届かなかった。「頑張りたいことや目標をもっている」は1学期末92.3%⇒2学期末93.4%(強肯定73.2%⇒69.3%)、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」は1学期末94.8%⇒2学期末97.4%(強肯定66.0%⇒66.8%)と、目標値に近づく傾向にある。 | B | 児童は自分に自信を持ち、前向きに成長している。自分の良さを認める力がしっかりと育まれており、日々の学びや活動に積極的に取り組んでいる。道徳の授業や家庭・地域との連携が、児童の自己肯定感を高める大きな支えとなっている。今後もこのような環境が維持され、児童が自分を大切に思えるような取り組みが続けられることを期待したい。 | B | 短期経営目標①については、学級における「個人の心の安全」の確保を重点的に進め、Eグループ(自己肯定感が低く人間関係に悩みを抱えている可能性がある)の割合をできる限り減らすことで、安心できる学級環境を築く。②については、道徳教育推進教師を中心に、校内研修や授業内容を充実させるとともに、家庭への啓発活動を強化する。③については、縦割り班活動や集会活動を計画的に実施し、学年間の交流を深めるとともに、思いやりのある言葉を増やし、不快な言葉を減らす(なくす)取組を通年で全学級に広める。④については、いじめが不登校の要因とならないよう、人権教育や発達支援の生徒指導を充実させ、早期発見と未然防止に努める。 |
| | | ③人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。 (縦割り班活動の充実やことばを大切にすることの醸成など) ○縦割り班活動の充実(縦割り班活動の回数を昨年度以上実施) ○「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の取組を実施し、「ふわふわ言葉を使っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「ちくちく言葉を使っていない」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) | 縦割り掃除、縦割りレクリエーション、全校集会などを計画通り実施できた。「ふわふわ言葉を使っている」肯定的評価は、1学期末96.1%⇒2学期末96.4%(強肯定62.7%⇒61.9%)、「チクチク言葉を使っていない」は、1学期末91.1%⇒2学期末91.4%(強肯定60.0%⇒61.7%)となり、肯定的評価は目標を上回る一方で、強肯定は目標に届かなかった。友達を思いやる言葉遣いが広まり、学校全体の落ち着きが増している。 | B | 児童が互いの頑張りや成長を認め合う姿が見られる。友達の良いところを見つけ、伝える習慣が育っている。温かい言葉が行動につながるよう、優しさを大切にする学級づくりを続けてほしい。 | B | |
| | | ④学校生活アンケート(いじめ調査)を実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価100% | 年間3回のいじめ調査を行い、日頃の取組を検証しながら指導に活かした。「学校生活が楽しい」と回答した児童の肯定的評価は、1学期末92.6%⇒2学期末92.1%(強肯定65.8%⇒67.4%)と目標値に近づいた。「いじめはどんなことがあってもいけない」とする肯定的評価は、1学期末98.5%⇒2学期末98.4%(強肯定89.7%⇒89.8%)と、高い水準を維持した。なお、いじめによる重大事案の発生はなかった。 | B | 児童の多くが学校生活を楽しんでいる。授業や行事での笑顔が多く、先生方の細やかな指導の成果が表れている。一方で、「いじめは絶対いけない」という意識をさらに定着させる必要がある。日頃から未然防止や早期発見に努め、児童が安心して過ごせる環境を整えてほしい。 | B | |
| | (2)読書活動の充実を図る | ①朝の読書、読み聞かせ、図書館を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸し出し冊数 月平均:低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊以上 ○貸し出し冊数の学年、学級差がないように読書の習慣を身に付けさせる。 | 1月末時点の一人あたりの図書貸出冊数は、低学年15冊、中学年10冊、高学年9冊となり、いずれの学年ブロック(1・2年/3・4年/5・6年)も目標を上回った。児童の読書習慣は定着しているが、貸出冊数の少ない学級もあり、引き続き支援や声かけが必要である。 | B | 読書習慣が定着し、全学年で目標を達成している。本を読むことは想像力や言葉の力を育み、心を豊かにする。デジタル機器の利用が増える中でも、本と触れ合う時間を大切に、読書の楽しさを伝えてほしい。 | A | 図書担当と図書支援員が中心となり、読書活動(朝読書、読み聞かせ、読書指導)の充実を図るとともに、図書館の環境整備(蔵書の充実、レイアウトの見直し)を進める。特定の学級だけに貸し出しが偏らないよう、全校で協力しながら読書週間の設置や学級内での良書の紹介など、読書習慣を促す工夫を行う。 |
| | (3)基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める | ①生活リズムの点検に取り組み、生活リズムの改善を意識させる。 ○生活点検の朝起きる時刻(全学年:6時半)全ブロック80%以上朝食を食べている、全学年95%以上 | 生活点検における「朝6時半までに起床できた日が4日以上」の児童割合は、1学期65.0%、2学期68.0%となり、目標値には届かなかった。「朝食を食べている」の割合は、1学期95.0%、2学期96.3%と、目標を達成した。 | B | 朝食をとる児童の割合は目標を達成しているが、質の良い睡眠や朝食の大切さを引き続き伝えていくことが必要だ。学校・家庭・地域が協力し、児童の健康を支えてほしい。朝の活動が一日を左右することを意識できるよう、引き続き働きかけをしてほしい。 | B | 保護者向け学校評価アンケートの結果から、社会のルールやきまりを守る指導への期待が最も高かった。中期経営目標(3)の達成には、家庭との連携が不可欠であり、保護者や地域と協力しながら取組を推進する。短期経営目標①については、生活習慣の改善を図るため、学期の始めに質の良い睡眠と朝食の大切さについて児童・保護者へ啓発し、意識向上を図る。②については、野市中学校区の重点取組である「チャイム席・掃除と挨拶の励行」を来年度も継続する。児童間での名前の呼び方についても、不快な言葉を減らすための取組を続ける。③については、児童の主体性を尊重し、教師主導ではなく、児童が自主的に行動できる環境づくりを進める。今後も、非認知能力(自分に関する力・人と関わる力)の安定と向上を目指し、生活リズムの確立や時間管理、挨拶や清掃の習慣化を学校・家庭・地域が一体となって支援する。 |
| | | ②あいさつや掃除のできる児童を育てる。 ○時・場・礼アンケート 「チャイム席を守っている」、「無言ですみずみまで掃除できている」、「朝や帰りの挨拶や、返事ができている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」肯定的評価85%以上(強肯定65%以上) | 「チャイム席を守っている」肯定的評価は、1学期末98.2%⇒2学期末97.7%(強肯定77.7%⇒74.1%)、「無言ですみずみまで掃除できている」は、1学期末99.0%⇒2学期末99.0%(強肯定80.9%⇒79.3%)、「朝や帰りの挨拶や返事ができている」は、1学期末97.3%⇒2学期末97.1%(強肯定72.6%⇒73.2%)、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」は、1学期末87.5%⇒2学期末87.3%(強肯定61.9%⇒62.4%)となった。おおむね目標値を達成したものの、「呼びきりせずに名前を呼ぶ」項目では、引き続き意識向上が求められる。 | B | 児童は毎日元気に遊び、友達との関わりを楽しんでいる。挨拶も明るく、自分の役割をしっかり果たす姿が見られる。小さなルールを守ることが、社会での生きやすさにつながる。掃除や縦割り班の活動を通して、自分の行動に責任を持てる環境をさらに充実させてほしい。 | A | |
| | | ③「くらしのきまり(学校・夏冬休み)」を遵守する児童を育てる。 ○道徳意識調査「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) | 「学校のきまりを守っている」肯定的評価は、1学期末97.6%⇒2学期末96.4%(強肯定67.5%⇒57.2%)となり、肯定的評価は目標を達成したものの、強肯定は届かなかった。児童の規範意識は高く、校内での暴力行為などの問題行動は発生していない。 | B | 学校のきまりがよく守られ、落ち着いた環境の中で児童が安心して学んでいる。上級生が下級生の手本となり、学年を超えた良い関係が築かれている。児童が自主的に行動し、互いに支え合いながら成長できる学校づくりを進めてほしい。 | A | |

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

| | 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 |
|-------------|--|---|---|----|--|----|---|
| | | | 達成状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| Ⅱ 学力の向上 | (1)子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る | ①児童の考えや表現を大切にしたい伝え合い、学び合いのある授業を行う。 (東小学校授業スタンダードの実施) ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」、「授業に主体的に取り組んでいる」、「タブレットを学習に活用することができる」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) | 児童が自ら考え、表現し、伝え合い、学び合う授業を推進してきた。「授業がわかる」の肯定的評価は、1学期末94.2%⇒2学期末94.6%(強肯定64.2%⇒66.1%)、「授業に主体的に取り組んでいる」は1学期末95.0%⇒2学期末96.7%(強肯定65.4%⇒65.7%)であった。また、4年生以上の「タブレットを学習に活用することができる」肯定的評価は88.2%(強肯定64.7%)と、目標値に近づいている。 | B | 授業研究の推進により、児童の主体的な学びが育まれている。先生方が互いに学び合い、授業改善に努めていることに感謝している。今後も児童が考え、伝え合い、学び合える授業を続けてほしい。 | B | 中期経営目標(1)の達成に向けて、全校研修やブロック研修、ICT活用研修を実施し、児童が主体的に学び、深い理解につながる授業改善を組織的に推進する。 短期経営目標①については、「思考力・判断力・表現力」、「見方・考え方」の育成を目指し、授業の構成(目標設定・発問・ゴール設定・振り返り・習熟)をより効果的に展開する。「授業が分かる」「主体的に学習している」と感じる児童の割合を70%以上にすることを目標とする。②については、ICTを活用した学習環境の整備を進め、児童が自分の学習を調整しながら主体的に取り組める授業づくりを目指す。AIドリルの活用による個別最適化学習を進めるとともに、タイピング技術の向上を支援する。教員についても、ICTを活用した個別学習・協働学習の実践例を共有し、授業の質を高める。 |
| | | ②教科等の学習で、ICTを活用した授業や校内研修を充実させる。 ○低・中・高ブロックに別に研究授業を行う。 ○ICT(クラウド、児童用タブレットPC、電子黒板等)活用に関する研修を深め、授業改善につなげる。 ○「タブレットを使って調べたり学習したりすることができる(4年生以上)」肯定的評価95%以上(強肯定85%以上) | 低・中・高ブロックごとの研究授業を全教員が実施し、ICTを活用しながら「見方・考え方」や「思考・判断・表現力」の育成を意識した授業改善を進めた。児童用タブレットや電子黒板の活用に関する教員研修も計画的に行い、児童用タブレットの持ち帰り、ミライシード(AIドリル)の実施、タイピング練習などを通じてICT活用能力と学力向上に努めた。また、4年生以上の「タブレットを使って調べたり学習したりすることができる」肯定的評価は94.1%(強肯定88.2%) | B | タブレットの活用が進み、操作技能が向上している。児童の発達に合わせた指導を行い、児童が上手に情報を活用できる力を伸ばしてほしい。ICTを使った学びが、より深まることを期待している。 | B | 中期経営目標(2)については、認知能力(学力)のさらなる向上を目指し、本校の研究主題「主体的に聴き、考え、表現する子の育成」をもとに、児童が自分の考えを持ち、仲間と協力しながら学ぶ力を伸ばす授業づくりを進める。 短期経営目標①については、全国学力・学習状況調査(4月)および標準学力調査(5月)の結果を基に児童の課題を把握し、全校級で授業改善と個別指導を実施する。学力調査の全国平均を上回ることを目指し、特に正答率30%以下の児童を減らす取組を進める。5年生以上は全国平均より3ポイント以上向上を目標とする。②については、加配教員や生活・学習支援員、保護者・地域ボランティアを活用し、国語と算数の基礎学力の向上を図る。③については、年度当初から計画的に校内支援会を開き、児童の課題に応じた指導・支援を実施する。保護者や教育機関、医療・福祉機関と連携し、児童に適した支援を行う。 |
| | (2)子どもたちの基礎学力の定着と、学力の向上に努力する | ①これまでの全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果を分析し、日々の授業改善に生かす。 ○標準学力調査において、全学年全国平均を上回る。正答率30%以下の児童0名 ○全国学力定着状況踏査で、算数・国語ともに全国平均を3ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童0名(6年) ○高知県学力定着状況調査で、算数・国語・理科ともに県平均5ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童0名(4・5年) | 4月に実施された全国学力・学習状況調査(6年生対象)では、国語が全国平均を上回った一方で、算数は全国平均をやや下回った。特に国語の記述式問題では全国平均を大きく上回る結果となった。12月の標準学力調査(1・2・3・6年生対象)では、各学年とも全国平均並み、もしくはそれを上回る成績を収めた。本校の正答率と全国平均を比較すると、国語がわずかに低い傾向があったが、正答率30%以下の児童は国語3名、算数7名であった。また、12月の高知県学力定着状況調査(4年生:国語・算数、5年生:国語・算数・理科)では、両学年とも全教科で県平均を上回った。正答率30%以下の児童は両学年とも算数で、4年生10%、5年生5%であった。 | B | 学力調査の結果から、基礎学力が着実に定着していることがわかる。日々の授業や家庭学習の積み重ねが、児童の学力向上につながっている。考える力や表現する力もさらに伸ばしながら、組織的に学力向上を進めてほしい。児童一人ひとりに応じた支援を充実させ、学ぶ楽しさを実感できる環境づくりをお願いしたい。 | B | 中期経営目標①については、全国学力・学習状況調査(4月)および標準学力調査(5月)の結果を基に児童の課題を把握し、全校級で授業改善と個別指導を実施する。学力調査の全国平均を上回ることを目指し、特に正答率30%以下の児童を減らす取組を進める。5年生以上は全国平均より3ポイント以上向上を目標とする。②については、加配教員や生活・学習支援員、保護者・地域ボランティアを活用し、国語と算数の基礎学力の向上を図る。③については、年度当初から計画的に校内支援会を開き、児童の課題に応じた指導・支援を実施する。保護者や教育機関、医療・福祉機関と連携し、児童に適した支援を行う。 |
| | | ②基礎基本の確実な定着を図り、個別の支援を行う。 ○TT体制で指導にあたる。 ○朝のウォーミングアップ・放課後パワーアップ教室を充実させる。特に朝のウォーミングアップを地域の方にも手伝ってもらい、基礎基本の徹底を行う。 | 基礎学力の定着を図るため、宿題プリントの実施や放課後の加力指導に取り組んだ。放課後も、学習支援が必要な児童には個別指導を行い、朝の加力指導も保護者や地域(地域学校協働本部)の協力を得ながら計画的に実施した。 | B | 朝学習や放課後の補習が定着し、児童の基礎学力の向上につながっている。自主的に学ぶ姿勢が育ちつつあり、学習習慣の定着にも良い影響を与えている。今後も児童が自信を持って学習に取り組めるよう、支援を続けてほしい。 | B | |
| | | ③特別支援教育に全校体制で取り組む。 ○定期的(月1回以上)に校内支援会を開催する。 ○SCやSSW、特別支援教育巡回アドバイザー等との連携を密に取り、チームで課題解決にあたる。 | 特別支援教育に関する研修や、支援が必要な児童への共通理解・共通実践を進めた。校内支援会も月1回以上開催し、課題の共有を行った。また、SSWやSC、森田村塾、福祉事務所、医療機関との連携を強化し、巡回教育相談も活用しながら、組織的な課題解決に努めた。 | B | 児童の特性に応じた支援が行われ、関係機関との連携も円滑に進んでいる。支援を受けた児童が落ち着いて学校生活を送ることができるようになっており、組織的な対応の成果が見られる。今後も、児童や保護者が安心できる支援体制の充実をお願いしたい。 | B | |
| | (3)家庭学習の習慣化に努める | ①家庭と連携し、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行う。 ○家庭学習を「しない」児童の割合を0%にする。 ○タブレットの持ち帰り(個に応じた学びの保証) | 家庭学習を全く行っていない児童は0名であった。宿題忘れは若干見られたものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。個々の特性や学習理解に応じた宿題の量や質を工夫し、タブレット等を活用した個別最適な学びを推進する必要がある。高学年においては、タブレットの持ち帰りが定着しつつある。 | B | 家庭学習の習慣が徐々に定着しつつあり、児童が学ぶ楽しさを実感できる機会が増えている。学習の成果を感じられるよう、一人ひとりに合った課題や学習方法を工夫してほしい。学校と家庭が連携し、自主的な学びを支えてほしい。 | B | 家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。児童が自主的に学習する姿勢を育むために、学習内容や分量には個別に配慮し、タブレットの持ち帰り学習も活用する。また、学年に応じた宿題の工夫や学習支援を充実させていく。 |
| Ⅲ 学校への信頼 | (1)保護者や地域との連携を密にし、信頼される開かれた学校を進める | ①保護者や地域に対して学校通信等により学校情報を積極的に発信する。 ○学校通信「三宝」、学年通信を月に1回以上、校長通信「野市東」を月2回程度のペースで発行する。 ○学校Webページを適宜更新する。 ○学校評価書を公開する。 | 学校通信は月1回、校長通信は月2回のペースで発行できたが、発行の間隔が不均一であった。学校Webページについては更新が滞っている状況である。保護者アンケートの「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思うか」の肯定的意見は91.4%で、昨年度より9.6%向上した。学年通信は月1回発行されているが、学級通信の定期発行が難しい学級もある。学校評価書については、計画書(公開済み)と報告書の公開を予定している。 | B | 学校便りや学級便りを通じて、児童の成長や学校の様子が保護者にしっかり伝わっている。学校の取り組みや児童の頑張りを共有することで、家庭との連携も深まっている。発行の頻度を調整しながら、今後も情報発信を続けてほしい。 | B | 中期経営目標(1)の達成には、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。地域と連携し、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 短期経営目標①については、学校や学級での児童の成長を伝える情報発信を充実させる。学年便りや学級便りの発行についても定期的な発信を継続する。②については、不審者対応訓練や実効性のある避難訓練を実施し、児童・教職員の危機管理意識を高める。③については、地域の人材を活用し、こども園と小学校の連携を強化する。保幼小間の交流活動を、年間を通して計画的に実施し、教員間の連絡会も適宜行い、連携を深める。 |
| | | ②児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。 ○学期ごとに安全点検を行う。 ○避難訓練(防災・防犯)を年間5回以上行う。 | 参観日や運動会などの学校行事、学P行事、体験学習は、人数制限なく計画通り実施することができた。学年懇談の内容については、各学年が文書を通じて家庭へ周知した。保護者アンケートの「学校は保護者の意見を聞き、学校運営に反映していると思うか」の肯定的意見は91.4%で、昨年度より7.6%向上した。 | B | 安全点検や避難訓練が定期的に行われ、児童の防災意識の向上にもつながっている。緊急時に冷静に行動できるよう、より実践的な訓練を行い、児童自身が自分の身を守る力を身につけられるようにしてほしい。今後も実効性のある安全対策を進めてほしい。 | B | |
| | | ③保護者や地域の方々の学校支援の充実を図る。 ○コミュニティ・スクール、地域学校協働本部事業を計画的に推進し、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。 | コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の取組は、計画通り進めることができた。朝の丸付けや読み聞かせ、授業支援や学校行事のサポートなど、保護者や地域の協力を得ながら実施された。本校の教職員だけでなく、児童も地域の支援に感謝しており、地域とともにある学校づくりを推進している。 | B | 地域との連携が深まり、学校全体が地域と共に成長している。こども園・小学校・中学校のつながりも強まり、地域の力を生かした教育が着実に進んでいる。今後も地域との関わりを大切にしながら、より良い学びの場をつくってほしい。 | A | |

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

| | |
|------|--|
| 経営理念 | <p>【学校教育目標】 自ら学び行動し、自分・他者・地域を愛する子供を育てる (目指す児童像)○主体的に学び、行動できる子 ○自分・他者・地域と対話ができる子 ○多様な見方・考え方、深い学びができる子 (目指す学校像)○あたたかく楽しい学校 ○活力にあふれた学校 ○地域に開かれた学校 (目指す教師像)○子供を大切に、保護者と共に歩む教師 ○教育公務員として自覚をもって取り組む教師 ○互いのよさを認め合い、協力して取り組む教師 【学校経営目標】 夜須中学校区一貫教育の推進に向けて～ 系統性・継続性・適時性のある教育実践と地域の信頼にこたえる学校づくり～</p> |
|------|--|

【評価規準】 A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

| 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 | |
|----------|---|--|------|---|----|--|--|
| | | 評価 | 達成状況 | 評価 | 考察 | | |
| 学力の定着と向上 | ○教員としての資質や指導力を高め、基礎・基本の定着と学力の向上を図るためのわかる授業づくりを行う。 ○系統的・継続的な指導を行い、児童個々の能力の伸長と自ら学ぶ力やともに学ぶ力の育成を図る。 | ①全国学力学習状況調査・高知県学力定着状況調査、標準学力調査(2回目)の算数科において、全国平均並みの学力を目指す ■各種学力調査結果 | B | 1年+5.2 2年+3.0 3年-1.7 4年+2.4 5年+13.2 6年+3.1 3年以外は達成。ただし、昨年度より大きく改善している。県の指定事業と併せて算数科の授業改善も研究の柱として取り組んだことの成果であると考え。 | B | 全国平均に達していない学年もあるが、昨年度より改善しており、先生方の取組の成果が大きく表れている。 | 学年により学力の定着に差はあるが、昨年度より改善してきており、ほぼ全国平均並みとなっている。来年度は、算数科の授業改善を研究の柱として取り組み、更なる学力向上・学力の定着を目指す。 |
| | | ②「授業に主体的に参加している」の肯定的回答95%以上を維持するとともに、強肯定7割を目指す。 ■特活アンケート | B | 肯定的回答約92%、強肯定66.7%とほぼ達成できている。ただ、教員の求める主体的に参加している姿にまでは到達していない。 | B | 主体的な姿を共有することで、どのように変化するか楽しみでもある。 | 主体的に学ぶ児童の姿を教職員で明確にし、授業の中で育てていく必要があるため、見直しをしている。来年度は、児童にその姿を伝え、より深い学びとなるよう取り組みたいと考えている。それに伴い、数値目標も変更する。 |
| | | ③「授業で協力したり、話し合ったりする活動をよくしている」の肯定的回答 90% ■特活アンケート | A | 肯定的回答約97%。達成できたと評価できる。本年度は、ペア学習や班活動を意図的に仕組んだため、友だちの意見を聞いて自分の考えをもったり考えを比較したりする場として児童が活用できるようになってきている。 | A | 学級会活動で話し合うことが授業にも生かされていた。 | 目標は達成できたが、教員の指示により行っていることが多い。児童自ら「もっと知りたい」「もっと聞きたい」「わかりたい」という主体的な学びの中での活動となるよう、②と併せて改善を図る。 |
| 豊かな心の育成 | ○多様な人間関係の中で自己を確立し、自己肯定感や自尊感情を育む教育活動を推進する。 ○いじめ防止基本方針に基づき、「いじめをしない・させない・許さない」学校づくりを進め、誰もが楽しく過ごせる学校づくりを行う。 ○夢や目標を持ちそれに向かって努力する子供を育てる。 | ①「自分にはよいところがある」「あなたは、まわりの人の役に立っていると思いますか」において肯定的回答85%を目指す。 ■特活アンケート | A | 「よいところがある」約90%と昨年度の74.4%から大きく改善した。「役に立っている」は1回目79.8%から2回目93%と、こちらも大きく改善した。特定の児童だけの活躍とならないように活躍の機会を増やしたことや、教員からの容認や励ましの声掛けによるものと考え。 | A | 小中の9年間、この数値を維持したい。特定の児童だけに偏らないように学校全体で取り組めた結果だと思う。それが自信へとつながっているのではないかな。 | 来年度も継続して、教員が肯定的な評価や声掛けを行うとともに、一人一役の活躍の場を設定する。また、自己の成長を実感できるよう振り返りの時間を確保したり児童同士で認め合う場を設定したりする。 |
| | | ②「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」肯定的回答90%を目指す。 ■特活アンケート | A | 約88%とほぼ達成できた。昨年度の81%より増加しており、改善傾向にある。学力の項目③とも関連して学び合う機会の増加や、話し合いにおいて、異なった意見に対して相手の意見を否定するのではなく、受け止めることを前提とした指導をしたことが児童の安心感につながったと考える。 | A | 小中の9年間、この数値を維持してほしい。異なった意見を受け入れる、受け止めることはとても大切だと思う。ぜひ継続してほしい。 | 来年度も、学び合う機会を設定するとともに、指定事業の話し合いにおけるスキルの向上を図りながら、自信をもって自分の思いや考えを伝えることができるよう取組を継続する。 |
| | | ③「あなたは、将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答95%を維持する。 ■特活アンケート | A | 約95%と達成できた。学級会や学校行事等でめあてを考えたり、自分ができるようになったことや改善点を振り返る時間を設定したことで、次の活動につながっている。 | A | 将来の夢や目標を持っている児童が95%とは、素晴らしい。 | 来年度も、行事や活動、学習において、単なる体験や活動だけで終わらせずに、自分ができるようになったことや、どこをどのように改善すればよいか等を振り返る時間を設定し、次の活動につなげるように取組を継続する。 |

| 中期経営目標 | 短期経営目標(評価項目) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 | |
|-----------------|--|--|--|---|---|--|--|
| | | 評価 | 達成状況 | 評価 | 考察 | | |
| 体力の向上と健康・安全への理解 | ○授業での体力づくりや体育的行事等を通して、積極的に運動に親しむ態度を育成し、運動能力の向上を図る。 ○心身の健康の保持増進に向けて、生活習慣の改善に自ら取り組むことのできる資質を育成する。 | ①「対話的な体育の授業が好き」…1～6年生 強肯定 75%以上 ■スポーツテストアンケート | A | 肯定評価は80.8%で、目標を達成することができた。本年度初めての取組だったが、単なる運動技能の向上ではなく、友達と話し合い、互いに協力し合いながら活動することで運動が苦手な児童も楽しく参加できている。 | A | 学び合う姿があることは素晴らしい。継続してほしい。 | 話し合い活動の時間を確保したことで、活動時間が短くなったり、意見の相違から口論になったりする場面もあったことから、単元の内容によって工夫する必要がある。 |
| | ②スポーツテストの判定A・B・C層…3学期までに75%以上 ■スポーツテスト | B | ・長座前屈と立ち幅跳びの結果が低かったこともあり、1学期のA・B・C層は71.2%にとどまった。朝の会での運動や体育授業などの取組を行ったが、目標には少し届かなかった。 | B | 引き続き取り組んでほしい。「やろうとする」気持ちが大事。改善策に示されている取組をぜひ生かしてほしい。 | 休み時間(ドッチボールや縄跳びなど)やシーズンスポーツ(運動会や水泳、持久走など)も使って、体力の向上も図っていく。 | |
| | ③「朝からスッキリチャレンジ」(年間3回)の全項目について向上させる。 ■朝からすっきりチャレンジカード | B | 朝食(主食・副食)、排便については向上したが、早起きについては向上できなかった。「メディア機器の使用時間を守る児童の割合」については72%だった。 | B | 啓発あるのみだと思う。 | 個人や家庭の協力によって取組結果の達成率の差が大きい。児童には継続的な保健指導や委員会活動での啓発を行い、保護者には保健だよりでの注意喚起や啓発、専門家による講演会の実施などを行っていきたい。 | |
| 信頼される学校づくり | ○開かれた学校づくりを進め、保護者や地域に信頼され、ともに歩む学校運営を行う。 | ①PTAと連携して、子育て支援や保護者ネットワークの強化を図るとともに、本年度は保護者とともに防災について考える機会を設定し防災意識の向上を図る。 ■学校だより毎月発行、PTAフェスタ・保護者読み聞かせの実施、防災参観日の設定 ①地域学校協働本部事業で地域ボランティアを積極的に導入し、組織化を推進する。 ■YASUらぎ子ども支援ネットワーク運営委員会の年2回実施、ボランティアによる学習年間50回以上 | A | ・防災参観日を設定し、合同避難訓練や講演会も同日に行うなど保護者とともに防災について考える機会をもつことができた。学校だよりは可能な限り毎月2回発行とした。PTAフェスタ、保護者読み聞かせも実施でき、保護者ネットワークの強化を図ることができた。 ・YASUらぎ子ども支援ネットワーク運営委員会を再開できた。ボランティアによる学習年間50回以上も達成できている。 | A | 工夫して取り組んでいると思う。継続してほしい。 | ・防災参観日は、保護者と一緒に防災について考えるよい機会となったが、体験活動や講演などが多かったため、来年度は保護者も参加して実施できるようにしたい。県の防災キャンプに当選したので活用し、児童・保護者・教員が一体となって防災意識の更なる向上を図りたいと考えている。 ・地域学校協働本部事業については、予算縮小となり、支援内容の見直しや人材確保など協力体制の見直し・改善を図る必要がある。 |
| | ○保幼小中で一貫した教育活動を展開し、人間として調和のとれた児童の育成を図る。 | ②防災授業年間5回以上、合同避難訓練年間3回以上実施するなどし、防災教育や危機管理体制の充実を図る。 ■「地震時に自分で判断し身の安全を守る」建物の中80%以上、屋外70%以上 ②保幼小中連携・充実に向けた研修及び交流を実施することで、保幼小中一貫教育の具現化を図る。 ■年間10回以上 | B | ・授業中や休み時間など様々な想定で避難訓練を行うことができた。防災授業・合同避難訓練に加えてJアラート訓練も実施でき、防災教育や危機管理体制の充実を図ることができた。 ・保幼小中連携・充実に向けた研修及び交流を実施することができた。特に合同防災研修会を昨年度に引き続いて実施し、教職員の防災意識の向上を図ることができた。 | B | 計画的な取組ができている。継続してほしい。 | ・来年度は本年度発令された南海トラフ地震注意情報に対する備えも必要である。教職員の役割や動きを確認するとともに、保護者にも説明をし、「命を守る・つなぐ」ことについて啓発したい。 ・連携教育については、来年度も見直しや改善を図りながら、児童の実態に合った内容に取り組む。 |
| | ○不祥事を生じさせない職場の風土づくりとワークライフバランスを確保した働き方改革の推進を図る。 | ①毎月の勤務時間外の在校時間45時間未満の達成率80% ②校務分掌の主副担当制の実施100% ③不祥事防止の研修の毎月の実施100%及び不祥事防止委員会の毎学期実施100% | B | ①達成率約85%。若年教員・事務職員・管理職の3名が未達成月があった。 ②達成できなかった。教員の病休に伴う代替教員の配置がなく、教職員の負担が大きくなったことが挙げられる。 ③100%実施できた。毎月の職員会に設定したため確実に実施できた。 | B | 人数の足りない中での取組で上記の成果が表れていることが素晴らしい。 | 教員の未配置により、教職員の負担が増している。校内では、行事や業務の見直しを図っているが限界がある。保護者や地域の理解を得る必要があるものもあり、学校だよりなどで発信し、理解と協力を得たい。 |

令和6年度 香南市学校評価書

| | |
|--------|---|
| 学校経営方針 | 学校教育目標【わたしがすき なかまがすき ふるさとがすき】 〈児童の姿〉○よいことに全力チャレンジ吉川の子 ○しあわせな故郷つくる吉川の子 ○かた組んで仲間と進む吉川の子 ○わたし好き人も大好き吉川の子 〈学校の姿〉○豊かな心を育む学校 ○確かな学力を育てる学校 ○子ども・保護者・地域に信頼される開かれた学校 〈教師の姿〉○豊かな人権意識を身につけた教職員 ○子どもを肯定的にとらえ、学びを支援する教職員 ○子ども、家庭、地域の願いを受けとめ、実践する教職員 ○仲間と協働し、課題解決に努力する教職員 ○教育に対する高い専門性を身に付けるために自己研鑽する教職員 |
|--------|---|

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

| | 中期経営目標 | 短期経営目標（評価項目） | 学校の自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善策等 |
|---------|--------------------------------|--|---|----|--|----|--|
| | | | 達成状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| 豊かな心の育成 | ○人権教育・ 道徳教育の 推進 | ①道徳教育、人権教育の授業の充実を図り、道徳アンケート「自分によいところがある」を80%にする。また道徳、人権学習の参観日での授業公開を実施する。「家庭で取り組む高知の道徳」の活用を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケート「自分によいところがある」の肯定的評価が76.7%。 ・道徳参観日で全学級が道徳の授業を公開した。 ・人権レポートを全教員が作成し、人権意識の向上と人権課題の克服に向けて取り組んでいる。人権レポートは香南市の代表として選出された。 ・「家庭で取り組む高知の道徳」を宿題にし、全学級が親子で取り組んだ。学校だよりでその様子をお知らせした。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会を適切に開催しており、支援体制は充実しているといえる。 ・人権レポートへの取組など、人権教育推進に向けた研修会を実施できている。 ・読書活動の推進については、なかなか改善策が見つからない。児童はユーチューブなどを見るのが多く、活字ばなれが顕著である。 ・持久走大会を参観した時に歩いている児童がいた。そのような雰囲気にならないように、目的や意義を児童に伝えていくことが大事である。 ・保護者の学校教育への理解を深めていかなければならない。家庭・地域・学校が繋がることが必要である。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修の内容を充実させ、人権意識を高める。 ・道徳参観日や人権参観日、講演会に多くの保護者が参加できるように時間設定や呼びかけを工夫する。 ・「家庭で取り組む高知の道徳」の効果的な活用を目指す。 |
| | ○情操教育の 推進 | ②図書活動を充実させ、学校評価アンケート「本を読むことが好き」を85%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員による読み聞かせや辞書引き大会、ペア読書を実施した。 ・図書委員会による読書の推進活動を行った。 ・学校評価アンケート（児童）：「本を読むことが好き」67% | B | | B | <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や本の借り換えを徹底し、児童が読書する機会を増やす。 ・児童が関心をもつ本の購入や、図書委員会による図書活動を充実させる。 |
| | ○認め合い、 支え合う集 団づくり | ③集会、学級活動等において、ほめ言葉を増やし、i-チェックで満足群の児童を85%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・i-チェック「個人の心の安定」A・B群が73.9%（23人中17人）4、5年は2回目未実施) ・集会、朝・帰りの会、学校・学級だより（道徳だより）等を活用し、自尊感情を高めた。 ・縦割り班を活用した集団づくりを実施した。 | B | | B | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な学級づくりを行い、異学年間（複式学級）の仲間づくりを大切にする。 ・集会や縦割り活動の内容を吟味し仲間づくりに視点を置く。 |
| | ○不登校を生 じさせない 学校体制づ くり | ④特別支援教育の研修や校内支援会を計画的に行い、長期欠席児童数を昨年度より減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWと連携した校内支援会を年間13回実施した。 ・是永先生を招聘した特別支援教育の研修会を年2回実施し児童支援に生かした。 | B | | A | <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に支援会を実施し、不登校の未然防止や児童理解に努める。 |
| 学力の向上 | ○学力の定着 | ①各種学力調査において全国平均以上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査は国語・算数ともに全国平均以下。 ・標準学力調査2回目は4年生が算数ともに全国平均以上達成。 ・全教職員が参加した加力学習を年間通して実施した。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階や教科の内容などを考慮し具体物の操作や体験なども取り入れながら、ICTを効果的に活用していくとよい。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着を目指し、組織的な加力学習（計算、漢字）を実施する。 |
| | ○授業の質の 向上 | ②複式授業の工夫・改善を進め、単式学級を含めた授業の質の向上を図る。全ての学級担任が授業公開を行うことで授業改善を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、東部教育事務所等の講師を招聘した校内授業研究会を実施し、複式授業を含む授業力の向上を目指した。 ・「令和の授業づくり講座」の拠点校として授業公開したことにより、タブレットを活用した複式授業について全教職員が理解を深めることができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力（漢字や計算）の定着を図ることは大事である。漢字の成り立ちを教えるなど丁寧な指導が必要だ。放課後子ども教室でも作業を取り入れている。学力の向上には家庭の協力が不可欠 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級担任が複式形態の授業研究を行う。 ・学校としての複式授業の在り方を再確認し、全教員が実行する。 |

| | | | | | | | |
|-----------|---------------|--|--|---|---|---|---|
| | ○自主学習の推進 | ③校内研修を計画的に実施し教員の授業力を高めることで表現力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 全教員が先進校（赤野小）を視察し複式授業の在り方について共有したり、算数科授業づくり講座（川北小）に参加し効果的な ICT 活用等について学んだりして授業改善を進めた。 全教員が複式形態の授業研究（事前研、授業、事後研）を実施した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> である。 読書の推進のために、児童が興味のある本を購入し図書室に置くことよ。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 先進校視察を継続する。 校内の授業研究を充実させ、授業改善の方策を全教員が共有し実行する。 |
| | ○読書活動の推進 | ④自主学習について、全教員が共通認識をもち内容改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 自学コンテストを年間 3 回実施した。校内研修では、教員が児童の自主学ノートを見合い、どのような自主学習を目指していくかを共有することができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 児童に自主学習の模範を提示ことにより、定着や内容の充実を図ることができるのではないかと。特に低学年は、自主学習の基本的なやり方を教えることが大切なのではないかと。 学習が分からない時、すぐに大人に頼る傾向がある。教科書やノートを見て、自分で考えられるようになることよ。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 自主学習の手引きや模範となるノートを活用し、自主学習の内容を高めていく。 |
| | | ⑤計画的な読書活動を行い、学校図書館や新聞を活用した学習活動を進める。（俳句づくり、記事応募なども実施） | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート（児童）「本を読むことは好きだ」肯定的評価 67% 教員による読み聞かせや辞書引き大会、ペア読書を実施した。 図書委員会による読書の推進活動を実施した。 表現活動に関する取組を計画的に実施するため、年間に取り組む作品展の一覧を作成し、教員で共有した。 朝読書の時間は各担任も児童とともに読書をすることを確認し実施した。 | B | | B | <ul style="list-style-type: none"> 児童が関心をもつ本を購入したり、図書室の環境を整えたりする。 図書委員会を中心とした読書活動の推進を図る。 作品展への計画的な募集や校内の掲示板を活用し、表現力を高める。 |
| 体力向上・健康増進 | ○体育的活動の充実 | ①体育授業や、体育行事を通して達成感を感じ、運動の楽しさを味わえるように体育的活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 運動会や体育行事において、児童が運動の楽しさを感じられるような内容を吟味している。 「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を体育集会で活用している。 体育集会を月 1 回実施した。 夏季休業中の補泳を実施した。 学校評価「体育の授業や体育集会は楽しい」（児童）肯定低評価 88%。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「早寝」「早起き」については、粘り強く啓発を続けていくしかない。 低学年からスマホを持っており、長時間使っている。各家庭で時間を制限できればよいが、なかなか難しい実態がある。市町村でルールを作り徹底させるなど工夫がいるのかもしれない。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 授業や行事、体育集会などを充実させ、運動することの楽しさを児童に味わわせる。 体育的行事の目的や意義を児童と共有する。 |
| | ○保健指導の充実 | ②保護者と連携し生活調べ「早寝」「早起き」の項目の達成率を改善する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活がんばりカード 3 学期の結果は「早寝」2.7、「早起き」3.0。スマホなどの視聴により寝る時間が遅くなり、早起きができていないと考えられる。 保健室だよりで保護者への啓発を実施している。 保健委員会による児童主体の活動が進んでいる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 「保護者同志を繋ぐ」「学校と保護者を繋ぐ」ができるような行事を地域として仕組んでいければよい。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活動や、保健だより、講演会などで、児童と保護者に向けて、基本的な生活習慣の確立について呼びかける。 |
| 信頼される学校 | ○防災教育の推進 | ①防災教育、安全教育の年間計画の改善と防災学習の実践力の向上。（引き渡し避難訓練実施） | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、避難訓練を年間 8 回実施した。 二次避難訓練（ハマート野市店）や避難タワーでの防風シート設置訓練（吉川みどり保育所と合同）等、新たな取組を進めた。 校舎や運動場の安全点検を定期的実施している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を放課後子ども教室の時間帯に実施してみてもどうか。あらゆる時間帯を想定して実行してみるとよい。 学校が二次避難の責任をもつことはおかしい。しかし、ハマート野市店まで歩いてみたことは、防災教育としてよかったと思う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室と連携するなどして、様々な場面での避難訓練を計画する。 |
| | ○生産者教育・食教育の充実 | ②生産者教育・食育の改善を進め、地域人材や食材を活用した取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 高学年はラッキョウの収穫、販売、中学年はシトウ、ラッキョウの植え付け、低学年はトウモロコシやピーマンの収穫を保護者や地域の方、JA、関係機関の方と行った。 全校児童が「もちつき大会」に参加した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ラッキョウの販売は、加工食品の取り扱い上、今後は難しくなる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ラッキョウの販売は難しいが、地域や保護者と連携した取組は継続していく。 |
| | ○連携教育の重質 | ③保育所や赤岡小学校、赤岡中学校との連携の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 赤岡中学校区の連携を各部会で計画し各学年が実施した。 赤岡小学校と合同で修学旅行を実施し、6 年生同志の交流が深まった。 吉川みどり保育所の校内研修に管理職と 1 年担任が参加した。 夏季休業中にはみどり保育所で保育士の体験を行った。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 赤岡中学校区での連携は継続してほしい。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 赤岡中学校区の連携を継続し、交流の内容の充実を目指す。 |
| | ○開かれた学校づくり | ④学校だより等を活用し、保護者・地域に向けて、学校や児童の様子を積極的に知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを 50 号以上発行した。 HP に学校だより、行事計画を随時アップした。 「すぐー」で行事計画をお知らせした。 学校評価アンケート（保護者）「学校行事は参加しやすいように配慮されている」「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている」肯定的評価は昨年度より向上。 | A | <ul style="list-style-type: none"> HP の更新が日常的にできている。予定表も掲載されているのでよい。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 効果的に「すぐー」を活用していく。 HP の更新も随時行っていく。 |